

愛知県美術館年報

目次

収集・保存・管理	4
収集.....	4
収集方針.....	4
収集委員会.....	4
収集の状況.....	4
新収蔵作品.....	5
寄託.....	6
美術品等取得基金について.....	6
保存.....	7
保存事業の実施状況.....	7
管理.....	8
作品の管理.....	8
作品の貸出.....	8
展示・教育普及	9
所蔵作品展.....	9
展示の概要.....	9
所蔵作品展の開催状況と入場者数.....	9
所蔵作品展 展示作品リスト.....	10
テーマ展（小企画展）.....	23
その他.....	23
企画展.....	24
企画展一覧.....	24
企画展の開催状況.....	26
移動美術館.....	34
教育普及.....	36
出版・発行.....	36
講演会・講座・シンポジウム等.....	38
学芸員による展示説明会（ギャラリートーク）.....	39
各種プログラム.....	39
友の会への運営協力.....	41
調査研究	42
美術館活動に則した調査研究.....	42
その他.....	42
ギャラリー（貸館）	43
利用状況.....	43
組織・職員構成	46
関係委員会名簿	47

収集

収集方針

- ・ 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・ 現在を刻印するにふさわしい作品
- ・ 愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・ 上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

収集委員会（※委員名簿は47頁）

開催日

- ・ 第1回2003（平成15）年5月28日
- ・ 第2回2003（平成15）年9月9日
- ・ 第3回2004（平成16）年1月21日

収集の状況

- ・ 上記の収集方針にそって5点の作品を購入し、128点の作品の寄贈を受けた。また、それとは別に木村美保子氏（故木村定三氏夫人）より木村定三コレクション 2,920点の寄贈を受けた。

美術品等収集状況

種別	2003(平成15)年度		2004(平成16)年3月末現在 所蔵総点数 ()内は旧文化会館および 県他施設からの管理換え
	購入 点数	寄贈 点数	
日本画	0	0	220 (149)
洋画	5	9	556 (394)
立体	0	0	115 (30)
版画	0	79	522 (102)
水彩・素描	0	40	514 (309)
インスタレーション	0	0	2 (0)
工芸	0	0	50 (50)
書	0	0	20 (20)
資料	0	0	12 (4)
藤井達吉 コレクション	—	—	1,460 (1,460)
木村定三 コレクション	—	2,920	3,264 (0)
計	5	3,048	6,735 (2,518)

※愛知県美術館の所蔵作品は、愛知県文化会館美術館から移管された作品と愛知芸術文化センター愛知県美術館のために1987年4月以降収集された作品から成っている。藤井達吉コレクションとは、愛知県文化会館美術館の開館時（1955年）に藤井達吉氏により寄贈された同氏の作品および同氏が収集した絵画・工芸などを指す。また、木村定三コレクションとは、2001年度・2002年度に木村定三氏より、2003年度に木村美保子（故木村定三氏夫人）氏より寄贈された木村定三氏が収集した絵画・工芸などを指す。

木村定三コレクションの内訳

		2001(平成13) 年度	2002(平成14) 年度	2003(平成15) 年度	計
		定三氏寄贈		美保子氏寄贈	
海外	絵画	0	0	17	17
	彫刻	0	11	16	27
	工芸	0	0	254	254
	書跡	0	0	8	8
	考古資料	0	177	120	297
	版画	0	0	17	17
	水彩・素描	0	0	6	6
	資料	0	0	11	11
	小計	0	188	449	637
日本	絵画	11	91	708	810
	彫刻	0	7	81	88
	工芸	0	11	1,017	1,028
	書跡	0	21	180	201
	考古資料	0	0	175	175
	版画	0	0	127	127
	水彩素画	0	15	158	173
	資料	0	0	25	25
	小計	11	145	2,471	2,627
	計	11	333	2,920	3,264

新収蔵作品

愛知県美術館では、コレクションの充実をはかるべく継続して収集を続けている。1988年の美術品等取得基金の設置以来、コレクション充実に努め、2003（平成15）年度は、これまでに愛知県美術館において企画展や小企画展で展示したことのある現存の作家の作品5点を購入したほか、木村美保子氏、脇田チエ氏、田淵安一氏、松永 久氏、浅野 徹氏、松田みどり氏、浅川幸男氏、佃 秀實氏、吉岡弘昭氏、柳原義達氏、そして愛知県美術館友の会より寄贈を受け、寄贈点数は3,048点に及んだ。

収集作品一覧

購入作品

	種別	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	洋画	加納光於	流動のセミオティック	1982	油彩、画布	193.9×553.0
2	〃	杉戸 洋	the Rainbow Wall	2002	アクリル、画布	204.5×332.0
3	〃	〃	the Second Lounge	2002	アクリル、画布	268.5×415.5
4	〃	〃	the Wave	2002	アクリル、画布	230.5×340.5
5	〃	〃	the Tub	2002	アクリル、紙	38.0×45.5

寄贈作品（木村定三コレクションを除く）

	種別	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)	寄贈者 氏名
1	洋画	中村一美	破舎仏涅槃図 I	1993-95	油彩、画布	190.5×398.7	脇田チエ子氏
2	〃	田淵安一	鬼に金棒	1953	油彩、画布	100×61	作者
3	〃	〃	饗宴Ⅵ	1966	油彩、画布	146×114	
4	〃	〃	七宝の園	1990	油彩・金箔、画布	146×97	
5	〃	〃	あいまいな夕暮の一刻	1992	油彩・金箔、画布	104×73	
6	〃	〃	風のしじまNo.1	1991	油彩・金箔、画布	186×130	
7	〃	松永 久	切断-B	1975	油彩、画布	181.8×227.3	作者
8	〃	〃	相-A	2002	油彩・アクリル、画布	162.0×259.0	
9	〃	〃	相-B	2002	油彩・アクリル、画布	162.0×259.0	
10	版画	秋岡美帆	ゆれるかげ	1991	シルクスクリーン、紙	56.5×76.3	浅野 徹氏
11	〃	黒崎 彰	四つの風	1999	木版、紙	59.8×89.8	
12	〃	パブロ・ピカソ	蜘蛛（ビュフォン『博物誌』より）	1942	アクアチント・エッチング、紙	27×21	松田みどり氏
13	〃	マルク・シャガール	主に呼ばれるサムエル（『聖書』より）	1931-39/ 52-56	エッチング、紙	28.6×23.8	
14	〃	得田壽之	作品F	1966	シルクスクリーン、紙	37.4×25.1	
15	〃	ヘンリー・ミラー	仮面をかぶった顔	1968	リトグラフ、紙	45×31	
16	〃	鬨嘯	海野原Ⅲ	1978	シルクスクリーン、紙	55.0×110.0	

17	版画	ジャン=ピエール・カシニョール	夜のヌイ	1978	リトグラフ、紙	46.7×67.9	松田みどり氏
18	〃	オノサト・トシノブ	ポスター	1969	シルクスクリーン、紙	42.0×54.5	浅川幸男氏
19	〃	オノサト・トシノブ	ポスター	1969	シルクスクリーン、紙	42.0×54.5	
20-68	〃	佃 政道	高野山不動堂 ほか49点				佃 秀實氏
69-72	〃	吉岡弘昭	Qの像 ほか4点				愛知県美術館 友の会
73-88	〃	吉岡弘昭	変身シリーズ NO.1 ほか16点				作者
89-128	素画	柳原義達	裸婦 ほか40点				作者

寄託

新規寄託品

2003（平成15）年度には新たに4件19点の寄託を受けた。

寄託の状況（20件）

分類	点数
洋画	23
日本画	39
彫刻	55
素描	10
資料	4
計	131

平成16年3月31日現在

美術品等取得基金について

愛知県美術館と陶磁資料館が、芸術的価値の高い美術品等を機動的、継続的に収集するための財源として昭和63年4月に設置された。基金には、県からの積立金ほかに、美術品等の収集を支援する民間からの寄付金が含まれている。

運用状況（2004（平成16）年3月31日現在）

基金総額		111億6262万3533円
運用内訳	美術品	94億4624万5630円 (1,296点)
	現金	17億1637万7903円

*平成11年度末から一般会計に繰入運用されていた15億円が、2003（平成15）年度末に美術品取得基金に返還された。

保存

保存事業の実施状況

開館後12年が経過し、設備の老朽化あるいは予算の削減などで、従来の作品環境の維持が難しくなってきた点がある。そのため改めて環境の基本的な面を調査し、考察を行った。

一方、この年度も寄贈作品が大量にあった。ここ数年の顕著な特色として、版画や素描類が作品単体で寄贈されることが多く、そのマット装や額装の必要点数およびその経費が、新収蔵作品展直前まで定まらないため、既存の所蔵作品の保存処置計画を実行していく上で問題を生じさせている。

なお大量寄贈された作品類には被害歴のあるものが多く、燻蒸処理が避けられなかった。また処理を行った後も、調査者の健康への被害が憂慮される物が多く、そのために環境改善も必要になった。

ア 所蔵作品の状態調査

・この年度の寄贈作品に対し、早急な処置の必要性を前提に外部委託した

* 調査を外部委託した作品の一覧

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的	調査者
1	パブロ・ピカソ	蜘蛛（ビュフォン『博物誌』より）	1942	アクアチント・エッチング、紙	保存計画	森京子
2	マルク・シャガール	主に呼ばれるサムエル（『聖書』より）	1931-39/ 52-56	エッチング、紙	保存計画	森京子

イ 所蔵作品の保存処置等

・この前年度の寄贈作品に対し保存処置を外部委託した。

* 保存処置作品の一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	処置前の状態	処置内容	処置者
1	ふじい忠一	Untitled (紙・グワッシュ)	素描	絵具層の剥離、剥落	剥落留め（膠）	森京子
2	ふじい忠一	Untitled (紙・グワッシュ)	素描	絵具層の剥離、剥落	剥落留め（膠）	森京子
3	ふじい忠一	Untitled (紙・グワッシュ)	素描	絵具層の剥離、剥落	剥落留め（膠）	森京子
4	ふじい忠一	Untitled (紙・グワッシュ)	素描	絵具層の剥離、剥落	剥落留め（膠・生麩糊）	森京子
5	ふじい忠一	Untitled (紙・グワッシュ)	素描	絵具層の剥離	剥落留め・補彩	森京子

・この年度の寄贈作品117点に対しマット装、額の改造などを行った。

・木村コレクションの一部に保存箱を作製した。

ウ 保存環境の整備

- ・展示室・収蔵庫の空気環境の測定（酸・塩基性ガス、揮発性有機物、アルデヒド類測定）
- ・収蔵庫の外気取り入れに関する考察および検討
- ・展示ケース内の換気に関する考察および検討
- ・調湿剤などの展示用備品の調査と考察（アートソープ等の効力試験）
- ・寄贈作品に対する燻蒸の実施（エキボン被覆燻蒸）

エ 調査環境の改善（おもに調査者に対する）

- ・カビの生えた資料の取扱いに関する館内ルールの協議
- ・上記に必要な備品および環境の整備

オ 借用作品の点検とその維持管理

管理

作品の管理

- ・外部包括監査の指摘を受け、備品台帳と所蔵作品リスト、作品カードとの照合整理に着手した。
- ・寄贈作品の大量受け入れにともない、収蔵庫内の作品収納場所の変更、整理を行なった。

作品の貸出

内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、保存状態が良好で、所蔵作品展の展示計画に支障がないものについて、展覧会の内容やその意義を勘案し、所蔵作品貸出要領に則って貸出を行った。

貸出の概要

貸出先		件数	点数
国内	美術館・博物館	45	72
	県関係機関	5	45
国外	美術館・博物館	1	1
計		51	118

その他

他美術館所蔵作品の保管

- ・三重県立美術館の改築工事に伴い、同館の所蔵作品の一部を保管した。

緊急時の対応を目的としたネットワークへの参加

- ・全国美術館会議災害時情報ネットワーク東海ブロック幹事館

所蔵作品展

展示の概要

県民がいつでも20世紀の美術の特質に触れ、その展開を見ることができる展示を提供すると同時に、来観者の多様化する関心も考慮して、各期ごとに、企画展と関連する時代や作家、あるいは一つのまとまりのある作品群に焦点をあてた特集展示を行なった。2001（平成13）年度から年に一度全館を使用して開催している全館所蔵品展では、当館のコレクションのなかでも層の厚い1950年代、60年代の作品によって「日本の戦後美術」展を構成した。また、この年度に新たに収集した作品を県民に紹介する新収蔵作品展を開催した。小規模企画展であるテーマ展では、当地方で制作活動を行なっている若手作家を取り上げ「中條直人」展を開催した。2001（平成13）年度以降、数多くの美術工芸品の寄贈を受けた木村定三コレクションについては、展示室一室をあてて常時公開した。この木村コレクションの寄贈が新聞報道されたこともあって、これをめあてに来館する人も数多く見られた。

2003（平成15）年度所蔵作品展開催状況と入場者数

展示期	会期	入場者数	1日平均
2003（平成15）年度第Ⅰ期	2003年4月11日－7月27日（79日間）		
特集展示 「現代の版画」 「関根正二と村山槐多」	4月11日－5月18日 6月6日－7月27日	38,504人	487人
内訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	37,712人 792人	477人 10人
展示期	会期	入場者数	1日平均
第Ⅱ期	2003年8月5日－12月21日（109日間）		
特集展示 「アートと実物のおもしろい関係」	8月5日－9月23日	30,292人	278人
内訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	28,351人 1,941人	260人 18人
展示期	会期	入場者数	1日平均
第Ⅲ期	2004年1月6日－3月28日（71日間）		
全館所蔵品展 「日本の戦後美術展」 特集展示 「平成14年度新収蔵作品展」 テーマ展 「中條直人展－アプリオリ」	3月6日－3月28日 ” ”	15,915人	224人
内訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	11,990人 3,925人	169人 55人
2003（平成15）年度	合計（259日間）	84,711人	327人
内訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	78,053人 6,658人	301人 26人

所蔵作品展 展示作品リスト

(*印は三重県立美術館所蔵作品)

■2003(平成15)年度 第I期

三重県立美術館の改築工事のため当館で預かった作品を所蔵作品展に加えることによって、日本の近代美術を中心にいつも以上に厚みのある展示構成が可能となり、当館の作品も鑑賞者にとって新鮮な目で見られると好評であった。

前期(4月11日-5月18日)

前室1 学芸員お薦めの1点	村山 槐多 自画像* 1914-1915	オーギュスト・ルノワール 青い服を着た若い女* 1876
高橋 由一 不忍池 1880頃	小出 楯重 N婦人像 1918	ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海I 1927
4室 大正時代の絵画	小出 楯重 蔬菜静物 1925	アンリ・マティス 待つ 1921-1922
安井 曾太郎 婦人像 1912頃	清水 登之 建築現場(ワーガーデン) 1923	エルンスト・ルヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912
中村 彝 静物 1915頃	清水 登之 風景* 1921	エルンスト・ルヴィヒ・キルヒナー 日の当たる庭 1935
梅原 龍三郎 横臥裸婦 1908	清水 登之 ロシアダンス* 1925	エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等) 1915
佐伯 祐三 サンタンヌ教会* 1928	清水 登之 蹄鉄* 1925	パウル・クレー 女の館 1921
中村 彝 髑髏のある静物* 1923	古賀 春江 夏山 1927	ベン・ニコルソン 1933(スペインの松葉書のあるコラージュ) 1933
山下 新太郎 白耳義の少女 1909	古賀 春江 煙火* 1927	マルク・シャガール 枝* 1956-1962
坂本 繁二郎 海岸の家 1915	<彫 刻>	ジョアン・ミロ 絵画 1925
前田 寛治 褐衣婦人像 1925	荻原 守衛 女の胴 1907	ポール・デルヴォー こだま 1943
前田 寛治 裸婦* 1928	戸張 孤雁 煌めく嫉妬 1924	マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954
萬 鐵五郎 木の間よりの風景* 1918	5室 20世紀の美術	アントニ・タピエス ひび割れた黒と白い十字架* 1976
岸田 劉生 斎藤与里氏像 1913	<絵 画>	アントニ・タピエス コンポジション 1977
岸田 劉生 高須光治君之肖像 1915	パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女 1902	モーリス・ルイス デルタ・ミュー 1960-1961
岸田 劉生 麦二三寸* 1920	クロード・モネ ラ・ロシュブロンドの村* 1889	フランク・ステラ River of Ponds IV 1969
木村 荘八 壺を持つ女 1915	ピエール・ボナール 子供と猫 1906頃	アド・ラインハート No.114 1950
河野 通勢 自画像 1917	エドゥアール・ヴュイヤール 窓辺の女 1898	磯辺 行久 WORK-63-28* 1963
大沢 鉦一郎 大曾根風景 1919	グスタフ・クリムト 人生は戦いなり 1903	阿部 展也 R-26* 1970
大沢 鉦一郎 自画像 1919	藤田 嗣治 青衣の少女 1925	菅井 汲 森の朝* 1967
宮脇 晴 自画像 1920	アルベール・マルケ ノートルダムの後陣 1902	前田 常作 空間の秘儀(出現その5)* 1965
関根 正二 チューリップ 1918頃 寄託作品	ピエール・ボナール にぎやかな風景 1913頃	宇佐美 圭司 銀河鉄道* 1964

宇佐美 圭司	遠い歩み	1964
--------	------	------

元永 定正	赤と黄色と*	1966
-------	--------	------

<彫刻・立体>

ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
-----------	-----------------	------

ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-1966
-------------	------	-----------

6室 現代の版画

高松 次郎	版画集 水仙月の四日*	1984
-------	-------------	------

辰野 登恵子	Aug.-Oct. 1992	1992
--------	----------------	------

加納 光於	稲妻捕りL	1977
-------	-------	------

野田 哲也	日記1976年2月11日	1976
-------	--------------	------

野田 哲也	日記1978年2月10日	1978
-------	--------------	------

野田 哲也	日記1978年8月19日	1978
-------	--------------	------

野田 哲也	日記1983年2月27日小金井にて	1983
-------	-------------------	------

7室 運動する形態

ジャック・ヴィヨン	存在	1920
-----------	----	------

フランティシュク・クブカ	灰色と金色の展開	1919
--------------	----------	------

レイモン・デュシャン=ヴィヨン	恋人たち	1913
-----------------	------	------

ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
------------	--------	------

アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女	1912
----------------	-----	------

エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-1912
-------------	----	-----------

ラースロー・モホリ=ナジ	コンストラクション [ケストナー=版画集6]より	1922-1923
--------------	--------------------------	-----------

ラースロー・モホリ=ナジ	コンストラクション [ケストナー=版画集6]より	1922-1923
--------------	--------------------------	-----------

ラースロー・モホリ=ナジ	コンストラクション [ケストナー=版画集6]より	1922-1923
--------------	--------------------------	-----------

カジミール・マレーヴィチ	飛行機と汽車によるひとりの人間の同時的な死	1913
--------------	-----------------------	------

ライオネル・ファイニンガー	ダースドルフ	1918
---------------	--------	------

神原 泰	生命の流動	1924
------	-------	------

8室 木村定三記念室

熊谷 守一	土饅頭	1954
-------	-----	------

熊谷 守一	石亀	1957
-------	----	------

熊谷 守一	丁斑魚図皿	制作年不詳
-------	-------	-------

熊谷 守一	かたつむり図皿	制作年不詳
-------	---------	-------

熊谷 守一	二匹かまきり図壺	1943
-------	----------	------

熊谷 守一	自当知	1969
-------	-----	------

熊谷 守一	天無私	1968
-------	-----	------

熊谷 守一	つつづに揚羽蝶	制作年不詳
-------	---------	-------

熊谷 守一	ドクダミに蜆蝶	制作年不詳
-------	---------	-------

熊谷 守一	千大根	1972
-------	-----	------

熊谷 守一	寿野菜	制作年不詳
-------	-----	-------

熊谷 守一	臥裸婦	1955
-------	-----	------

熊谷 守一	はだか	1952
-------	-----	------

熊谷 守一	林中裸図花瓶	1944
-------	--------	------

熊谷 守一	白仔猫	1958
-------	-----	------

熊谷 守一	雨滴	1961
-------	----	------

熊谷 守一	漁村	1954
-------	----	------

熊谷 守一	普賢菩薩	1951
-------	------	------

熊谷 守一	千手観音	1954
-------	------	------

熊谷 守一	雨だれ	制作年不詳
-------	-----	-------

前室2、ロビー、ラウンジ

加納 光於	葡萄弾 VII	1973 寄託作品
-------	---------	-----------

加納 光於	葡萄弾 VIII	1973 寄託作品
-------	----------	-----------

加納 光於	カラヴァッジョのいる手帖	1979 寄託作品
-------	--------------	-----------

<彫刻・立体>

アレクサンダー・コルダー	ゴースト	1976 寄託作品
--------------	------	-----------

アレクサンダー・コルダー	片膝について	1944
--------------	--------	------

エミール=アントワヌ=ブルデル	ベネロープ	1908
-----------------	-------	------

上谷 武	植物空間 I-a	1990年
------	----------	-------

屋外展示スペース (年間を通じて展示替なし)

<彫刻・立体>

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
-------------	-------	------

アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
-------------	-------	------

加藤 昭男	大地	1986
-------	----	------

小田 襄	円柱の構造	1988
------	-------	------

今井 瑾郎	大地	1992
-------	----	------

■第1期 後期(6月6日-7月27日)

前室 学会員お薦めの1点

エミール=アントワーン=ブルデル 両手のペーターベン 1908

4室 大正時代の絵画

安井 曾太郎 婦人像 1912頃

藤島 武二 朝鮮風景* 1913

萬 鉄五郎 木の間よりの風景* 1918

中村 彝 静物 1915頃

中村 彝 婦人像* 1922

中村 彝 髑髏のある静物* 1923

前田 寛治 褐衣婦人像 1925

前田 寛治 裸婦* 1928

前田 寛治 母の像 1928

岸田 劉生 斎藤与里氏像 1913

岸田 劉生 高須光治君之肖像 1915

岸田 劉生 麦二三寸* 1920

木村 荘八 壺を持つ女 1915

河野 通勢 自画像 1917

大沢 鉦一郎 大曾根風景 1919

大沢 鉦一郎 自画像 1919

宮脇 晴 自画像 1920

小出 櫛重 N婦人像 1918

小出 櫛重 蔬菜静物 1925

小出 櫛重 裸女立像* 1925

古賀 春江 夏山 1927

古賀 春江 煙火* 1927

佐伯 祐三 自画像* 1917

佐伯 祐三 米子像* 1927

佐伯 祐三 サンタヌ教会* 1928

伊藤 廉 肘をつく女 (7月15日より展示) 1929

川島 理一郎 伎場の囃 1925

長谷川 利行 酒売場 1937

<彫 刻>

荻原 守衛 女の胴 1907

戸張 孤雁 焔めく嫉妬 1924

5室 20世紀の美術

<絵 画>

パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女 1902

ピエール・ボナール 子供と猫 1906頃

グスタフ・クリムト 人生は戦いなり 1903

アメデオ・モディリアーニ 黒い瞳の女 1918 寄託作品

オーギュスト・ルノワール 青い服を着た若い女* 1876頃

藤田 嗣治 青衣の少女 1925

アルベール・マルケ ノートルダムの後陣 1902

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺 1906頃

ピエール・ボナール にぎやかな風景 1913頃

ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海 I 1927

ジャック・ヴィヨン 存在 1920

フランティšek・クプカ 灰色と金色の展開 1919

アンリ・マティス 待つ 1921-1922

エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等) 1915

パウル・クレー 女の館 1921

ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ) 1933

マルク・シャガール 枝* 1956-1962

ジョアン・ミロ 絵画 1925

ポール・デルヴォー こだま 1943

マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954

アントニ・タビエス ひび割れた黒と白い十字架* 1976

アントニ・タビエス コンポジション 1977

モーリス・ルイス デルタ・ミュー 1960-1961

フランク・ステラ River of Ponds IV 1969

アド・ラインハート No.114 1950

磯辺 行久 WORK 63-28* 1963

難波田 龍起 原初の風景B 1987

難波田 龍起 萌 1961

難波田 龍起 創世A* 1961

村井 正誠 うしろ姿* 1956

山田 正亮 Work No.B 182 1958

斎藤 義重 作品 1962

山口 長男 屏形 1963

〈彫刻・立体〉

ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-1966

6室 関根正二と村山槐多

関根 正二	チューリップ 素描 16点*	1918頃
村山 槐多	自画像 素描 14点*	1914-1915

7室 キュビズムと表現主義

〈絵 画〉

エルンスト・ルードヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
--------------------	----------	------

〈彫刻・立体〉

レイモン・デュシャン・ヴイヨン	恋人たち	1913
アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女	1912

エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-1912
-------------	----	-----------

エルンスト・バルラッハ	母なる大地 II	1921
-------------	----------	------

ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち II	1913
------------	---------	------

〈版 画〉

エーリヒ・ヘッケル	疲れ	1913
-----------	----	------

エーリヒ・ヘッケル	第1回ドイツ現代美術展のポスター	1920
-----------	------------------	------

ジョルジュ・ブラック	小さなキュビズム的ギター	1909-1910
------------	--------------	-----------

ジョルジュ・ブラック	FOX	1911
------------	-----	------

ケーテ・コルヴィッツ	畠を耕す者「農民戦争」より	1906
------------	---------------	------

8室 木村定三記念室

須田 剋太	東大寺	1981
-------	-----	------

須田 剋太	東大寺落慶供養	1987
-------	---------	------

須田 剋太	鏡獅子	1989
-------	-----	------

須田 剋太	遊女の囃	1988
-------	------	------

須田 剋太	舞妓	1988
-------	----	------

須田 剋太	田舎娘	1986
-------	-----	------

須田 剋太	東京夜景	1983
-------	------	------

前室2

加納 光於	葡萄弾 VII	1973 寄託作品
-------	---------	-----------

加納 光於	葡萄弾 VIII	1973 寄託作品
-------	----------	-----------

加納 光於	カラヴァッジョのいる手帖	1979 寄託作品
-------	--------------	-----------

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・コルター	ゴースト	1976 寄託作品
--------------	------	-----------

アレクサンダー・コルター	片膝ついて	1944
--------------	-------	------

■2003(平成15)年度 第II期

前期は通常の所蔵作品展示を行なっている展示室に加え、展示室1を使って夏休み期間中に「アートと実物のおもしろい関係」と題して、20世紀美術の特徴の一つである素材の多様性について、小中学生にも親しみやすい構成にして特集展示を行った。また、後期は企画展「空海と高野山」会期中のみ4室も企画展示に使用して柔軟な展開をした。

前期(8月5日-9月23日)

1室 夏休み特集 アートと実物のおもしろい関係

ジム・ダイン	芝刈機	1962
フランツ・ゲルチュ	ナターシャIV	1987-1988
荒木 高子	砂の聖書	1983
工藤 哲巳	果てしなく続糸がからまるマルセルデュシャン	1977
アンディ・ウォーホル	レディス・アンド・ジェントルメン	1975
クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52	1920
クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305 ロボジッツ	1921
ロバート・ラウシェンバーク	コース	1958

三尾 公三	FICTION SPACE(X)	1974
-------	------------------	------

ラインハルト・セビエ	思想家	1993
------------	-----	------

上田 薫	なま玉子G	1976
------	-------	------

星野 真吾	喪中の作品(昇天)	1965
-------	-----------	------

榎倉 康二	干涉(Story-No.49)	1992
-------	-----------------	------

森村 泰昌	Doublong (Dancer2)	1988 寄託作品
-------	--------------------	-----------

森 万里子	Mirage (ImageD)	1973 寄託作品
-------	-----------------	-----------

鬨 嘸	グッパイムッシュゴージャン	1973
-----	---------------	------

前室1 学芸員お薦めの1点

アレクセイ・クルチョーヌフ	『爆』第2版	1913
---------------	--------	------

4室 昭和の絵画

野口 弥太郎	門	1931頃
--------	---	-------

須田 国太郎	夏	1941
--------	---	------

安井 曾太郎	承德喇嘛廟	1938
--------	-------	------

海老原 喜之助	森と群鳥*	1932
---------	-------	------

海老原 喜之助	ゲレンデ	1930
---------	------	------

海老原 喜之助	雪山と樵	1930
---------	------	------

北川 民次	海への道*	1942
北川 民次	タスコからの眺望	1933
児島 善三郎	箱根*	1938
前田 寛治	褐衣婦人像	1925
伊藤 廉	肘をつく女	1929
国吉 康雄	荒天	1936
木下 孝則	読書	1931
矢橋 六郎	女の肖像	1936
佐分 真	横たわる婦人 <small>制作年不詳</small>	
猪熊 弦一郎	馬と裸婦	1936
満谷 国四郎	裸婦	1930
坂井 範一	浴後	1936
佐分 真	裸婦	1930頃
鈴木 誠	横臥裸婦	1938
〈彫 刻〉		
高田 博厚	女のトルソ	1937
5室 20世紀の美術		
〈絵 画〉		
パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり	1903
アメデオ・モディリアーニ	黒い瞳の女 <small>1918 寄託作品</small>	
オーギュスト・ルノワール	青い服を着た若い女* <small>1876頃</small>	
藤田 嗣治	青衣の少女	1925

アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
エルストリート・ヴァル・キルヒナー	グラスのある静物	1912
アンリ・マティス	待つ <small>1921-1922</small>	
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等) <small>1915</small>	
パウルクレー	女の館 <small>1921</small>	
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ) <small>1933</small>	
マルク・シャガール	枝* <small>1956-1962</small>	
ジョアン・ミロ	絵画 <small>1925</small>	
ポール・デルヴォー	こだま <small>1943</small>	
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士 <small>1954</small>	
アントニ・タピエス	ひび割れた黒と白い十字架* <small>1976</small>	
アントニ・タピエス	コンポジション <small>1977</small>	
モーリス・ルイス	デルタ・ミュール <small>1960-1961</small>	
フランク・ステラ	River of Ponds IV <small>1969</small>	
アド・ラインハート	No.114 <small>1950</small>	
磯辺 行久	WORK 63-28* <small>1963</small>	
辰野 登恵子	Untitled 95-1 <small>1995</small>	
中西 夏之	紫・むらさき XIX <small>1983</small>	
加納 光於	繁み・運動・エレメント B <small>1988</small>	
堀 浩哉	風の音へー84・2 <small>1984</small>	

堀 浩哉	水の肌へー84・2 <small>1984</small>	
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している <small>1993</small>	
〈彫刻・立体〉		
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像 <small>1965</small>	
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界 <small>1959-1966</small>	
6室 横山 操 瀟湘八景		
横山 操	平沙落雁* <small>1963</small>	
	遠浦帰帆* <small>1963</small>	
	山市晴嵐* <small>1963</small>	
	江天暮雪* <small>1963</small>	
	洞庭秋月* <small>1963</small>	
	瀟湘夜雨* <small>1963</small>	
	烟寺晚鐘* <small>1963</small>	
	漁村夕照* <small>1963</small>	
7室 木村定三記念室 小川芋銭		
小川 芋銭	若葉に蒸さるる木精 <small>1921</small>	
	水虎と其眷属 <small>1921</small>	
	山彦の谷 <small>1921</small>	
	沼四題 <small>1922</small>	
	暁山雲 <small>1923</small>	
	關鶏村 <small>1933</small>	
	七月清涼味 <small>1937</small>	
	水郷春日 <small>1936頃</small>	
	桃花流水送漁夫 <small>1924</small>	

小川 芋銭	金太郎とカッパ ^パ	制作年不詳
	河童松	制作年不詳
	大鵬	1937
	卯月の芭蕉庵	1935
	紆泉道人洗面之池	1926

8室 街の情景

北川 民次	瀬戸十景	1937
北川 民次	池袋風景	1937頃 寄託作品
戸張 孤雁	十二階	制作年不詳

■第Ⅱ期 後期(10月10日-12月21日)

5室 20世紀の美術

<絵 画>

パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり	1903
アメデオ・モディリアーニ	黒い瞳の女	1918 寄託作品
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-1913
藤田 嗣治	青衣の少女	1925
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
エドゥアール・ヴェイヤール	窓辺の女	1898
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919

藤牧 義夫	銀行	1933
藤牧 義夫	まくら橋	1934
前川 千帆	渋谷百貨店	1929
前川 千帆	神田青物市場	1930
前川 千帆	深川木場	1930
前川 千帆	新宿夜景	1931
中村 岳陵	都会女性職譜*	1933
木村 荘八	私のラヴァさん	1934
長谷川 利行	酒売場	1927

ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
エルスト=ルートヴィヒ=キルヒナー	グラスのある静物	1912
アンリ・マティス	待つ	1921-1922
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
パウロ・クレイ	女の館	1921
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969

前室2、ロビー、ラウンジ

熊谷 守一	鳥	1938
霞光	自画像	1934
霞光	編物をする女	1934
<彫刻・立体>		
アレクサンダー・コルダ	ゴースト	1976 寄託作品
アレクサンダー・コルダ	片膝ついて	1944
舟越 桂	肩で眠る月	1996
ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ	1953

アド・ラインハート	No.114	1950
浅野 弥衛	作品	1979
菅井 波	ナショナル・ルート No.11	1964
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
中西 夏之	M字型-II	1981
加納 光於	繁み・運動・エレメント B	1988
堀 浩哉	風の音へ-84・2	1984
堀 浩哉	水の肌へ-84・2	1984
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
<彫刻・立体>		
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-1966
舟越 桂	肩で眠る月	1996

6室 近代の洋画

安井 曾太郎	承德喇嘛廟	1938
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
北川 民次	タスコからの眺望	1933
高橋 由一	不忍池	1880頃
国吉 康雄	荒天	1936
黒田 清輝	暖き日	1897
佐分 真	風景(ムードンからの眺望)	1927頃
小島 善太郎	房州風景	1930(1927)
小林 和作	薔薇咲くカプリ島	1928
青木 繁	太田の森	1902
長原 孝太郎	山村	1919
矢橋 六郎	武蔵野 冬 杉林	1941
鈴木 不知	山畑	1910

7室 現代の日本画

吉田 善彦	雨余桂林	1982
-------	------	------

今野 忠一	妙義	1977
田淵 俊夫	すぎばやし	1989
東山 魁夷	雪の山郷	1991
平山 郁夫	楼蘭の遺跡・昼	1990
平川 敏夫	樹峽	1974
麻田 鷹司	鬼界ヶ島	1982

8室 木村定三記念室 長谷川利行・香月泰男

香月 泰男	懸垂	1960
	綱渡り	1963
	ドリル	1963
	サッカー	1970
	ナホトカ	1961
	風船売り	1960
	風船売り	1960
	海老	1962
	リンドウの図平鉢	1958

長谷川 利行	ノアノアの少女	1937
	霊岸島の倉庫	1937
	伊豆大島	1937
	菊花など	1937
	ハンジー	1938

前室2、ロビー、ラウンジ

<絵 画>

山口 長男	庭	1935
山田 光春	門	1936
山田 光春	養	1937

<彫刻・立体>

アレクサンダー・コルダ	ゴースト	1976 寄託作品
アレクサンダー・コルダ	片膝ついて	1944
ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ	1953
ジャン・アルブ	森	1917頃

■2003年度 第Ⅱ期 後期B(11月26日-12月21日)(前室と4室のみ追加)

前室 学芸員お薦めの1点

ジャン・アルブ	森	1917頃
---------	---	-------

4室 東海の日本画

我妻 碧宇	大仏殿暮色	1950
森村 宜穂	四季草花図	1925頃
石川 英鳳	猿候の図	1935頃

川崎 小虎	四季草花野菜絵巻	1945頃
前田 青邨	江島詣	1917
前田 青邨	朝鮮五題 魚売	1939
前田 青邨	朝鮮五題 水汲	1939
前田 青邨	雨の蘇州	1919頃
太田 一彩	兔	1930年頃

朝見 香城	柳影	1925年頃
渡辺 幾春	少女	制作年不詳
嶋谷 自然	緑影	1950
平川 敏夫	萌林	1960
川崎 千虎	佐々木高綱被甲図	1884
川崎 千虎	頼朝朽木隠れ	制作年不詳

■2003(平成15年)度 第Ⅲ期

3期後期には全館所蔵品展を「春の愛知県美術館」と銘うって展開し、1、2室では『日本の戦後美術』をまとめて紹介し、他の展示室では木村美保子氏より新たに寄贈を受けた木村定三コレクションのなかからその主要作品を紹介するとともに、本年度新たに収集した新収蔵作品を特集して公開した。新聞報道の効果もあって木村コレクションへの関心が高かった。

前期(2004(平成16)1月6日-2月29日)

前室 学芸員お薦めの1点	5室 20世紀の美術	ニコラ・ド・スタール コンポジション 1948
ジャン・デュビュッフェ 二人の脱走兵 1953	〈絵 画〉	アド・ラインハート No.114 1950
4室 近代の日本画	パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女 1902	ジョージア・オキーフ 抽象第6番 1928
橋本 雅邦 秋景山水図 1887頃	ビエール・ボナール 子供と猫 1906頃	辰野 登恵子 Untitled 95-1 1995
横山 大観 飛泉 1900頃	グスタフ・クリムト 人生は戦いなり 1903	中西 夏之 紫・むらさき XIX 1983
横山 大観 牡丹 1921	アメデオ・モデリアーニ 黒い瞳の女 1918 寄託作品	加納 光於 繁み・運動・エレメント B 1988
菱田 春草 紅葉山水 1908	藤田 嗣治 青衣の少女 1925	堀 浩哉 風の音へー84・2 1984
伊東 深水 大島の黎明 1916	アルベール・マルケ ノートルダムの後陣 1902	堀 浩哉 水の肌へー84・2 1984
小茂田 青樹 漁村早春 1921	ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺 1906	松本 陽子 光は荒野の中に拡散している 1993
小茂田 青樹 柿 1919頃	ビエール・ボナール にぎやかな風景 1913頃	百瀬 寿 Square-NE XIV: Twelve Stripes E 1987
前田 青邨 江島詣 1917	エドゥアル・ヴェイヤール 窓辺の女 1898	根岸 芳郎 1997-11-18 1997
小林 古径 洗濯場その1 1926	フランティシェク・クプカ 灰色と金色の展開 1919	菅井 汲 ナショナル ルート No.11 1964
洗濯場その2 1926	アメデオ・モデリアーニ カリアティード 1911-1913	サム・フランシス 春 1984-1988
速水 御舟 西郊小景 1923	ジャック・ヴィヨン 存在 1920	サム・フランシス 消失に向かう地点の青 1958
橋本 関雪 猿猴待月 1938頃	エルンスト・ルーフ・ゲルヒンガー グラスのある静物 1912	デイヴィッド・スミス チャイニーズ・レストラン 1959 寄託作品
安田 靱彦 月の兎 1934	アンリ・マティス 待つ 1921-1922	6室 若林奮
安田 靱彦 豊太閤 1956頃 寄託作品	エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等) 1915	若林 奮 大気中の緑色に属するものI 1982
安田 靱彦 柿と赤絵皿 1958 寄託作品	パウル・クレー 女の館 1921	(制作ノート) 1981-1982
川崎 小虎 四季草花野菜絵巻 1945頃	ジョアン・ミロ 絵画 1925	7室 藤井達吉
小杉 放菴 花鳥図屏風 1946-1955	ポール・デルヴォー こだま 1943	藤井 達吉 山芍薬 1921頃
前田 青邨 雨の蘇州 1919頃	マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954	小百合 大正末頃
	アントニ・タビエス コンポジション 1977	桜図 1924

藤井 達吉	舞鶴草	1930
	葡萄ともみじ	昭和初期
	あざみ	1932頃
	一閑張桜絵手筈	1940
	梅の花(落花)	1946
	継色紙風蓋物	1947
	和歌筒茶碗	1947
	和紙渡込絵巻	1948
	梅	1950頃
	かしわもち	1956
	梅	1956
	継色紙風屏風	1964
	梅百題(六十八)	1962

■第Ⅲ期 後期(3月6日-3月28日)

展示室1、2 日本の戦後美術

<日本画>

加山 又造	黒い鳥	1957
吉岡 堅二	鶴	1959
水谷 勇夫	玩具	1960
中村 正義	爽々	1966
下村 良之介	鼓舞	1964
星野 真吾	喪中の作品(昇天)	1965
三上 誠	経絡万華経	1967

藤井 達吉	染色図案集	1933
	やまかげ	1956頃

8室 木村定三記念室 古美術

	不動明王立像	平安時代(12世紀)
	毘沙門天立像	平安時代(12世紀)
	天部像	平安時代(12世紀)
	三尊仏龕像	中国・北魏時代(6世紀前半)
	如来坐像	中国・北魏末-東魏時代(6世紀前半)
	如来坐像	中国・北魏末-東魏時代(6世紀前半)
	人面裝飾壺	エクアドル・統合期(500-1534年)
	土偶	エクアドル・統合期(500-1534年)
	玉琮	中国・新石器時代
	玉琮	中国・新石器時代

三上 誠	環一・経路	1967
------	-------	------

<洋画>

村井 正誠	天使	1950
三岸 節子	魚とインカの壺	1951
香月 泰男	散歩	1952
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
鳥海 青児	うずくまる	1954
森 芳雄	女たち	1954
桂 ゆき	人と魚	1954

前室2、ロビー、ラウンジ

<絵画>

モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
山口 長男	庭	1935
山田 光春	門	1936
山田 光春	森	1937

<彫刻・立体>

オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
アレクサンダー・コルダ	片膝ついて	1944(1968)
舟越 桂	肩で眠る月	1996

瑛九	白い輪	1954
----	-----	------

田淵 安一	有機的表象	1955
小山田 二郎	こわす者	1955
池田 龍雄	黒い機械	1956
小山田 二郎	愛	1956
宮本 三郎	家族	1956
金山 康喜	静物	1956
古茂田 守介	裸婦A	1957
尾藤 豊	モスクワの地下鉄	1957

瑛九	黄色い花	1957-1958
杉全直	窪んだ空間B	1958
山田正亮	Work No.B 182	1958
中村 宏	反乱期	1958
オノサトシノブ	三つの黒	1958
尾藤 豊	拠点の崩壊	1959-1960
中西 夏之	人間の地図	1959 寄託作品
福沢 一郎	王、王妃及び見者	1959
脇田 和	断層の人と鳥	1960
林 武	ノートルダム	1960
難波田 龍起	萌	1961
元永 定正	作品	1961
鳥海 青児	石の街(ペルー・マスビッチ)	1961
牛島 憲之	埋れる船	1962
斎藤 義重	作品	1962
堂本 尚郎	絵画 1962-25	1962
眞島 建三	原始言語	1963
白髪 一雄	作品	1963
山口 長男	屏形	1963
荒川 修作	作品	1963
吉仲 太造	遺産	1964
森 真吾	きいろの角	1964
麻生 三郎	胴体と頭と電球	1964
菅井 汲	ナショナル・ルート No.11	1964

宇佐美 圭司	遠い歩み	1964
大沢 昌助	赤い幻想	1965
佐藤 敬	石の記録	1965
福本 章	樹のある風景(馬事公苑 A)	1965
稲葉 桂	土にかえるもの 65-1	1965
木村 忠太	ヌームルの運河	1966
桑山 忠明	茶白青	1968
浅野 弥衛	作品	1979
〈水彩・素描〉		
池田 龍雄	作品56「化物の系譜」シリーズより	1956
池田 龍雄	家来めくは忠誠「化物の系譜」シリーズより	1956
池田 龍雄	顔「化物の系譜」シリーズより	1956
池田 龍雄	思慕鳥「禽獣記」シリーズより	1958
池田 龍雄	風景	1958
池田 龍雄	シリーズ「街」	1959
近藤 文雄	裁き	1962
近藤 文雄	あいつ	1962
近藤 文雄	さらしもの(3)	1964
〈立体〉		
山口 勝弘	ワイトリーヌ	1955
堀内 正和	四角と丸の組合せb	1956
柳原 義達	黒人の女	1956-1960
久野 真	鋼鉄による作品	1959
榎尾 正次	葉っぱのように	1965

〈版画〉		
瑛九	驚き	1951
瑛九	しゃがんで	1951
駒井 哲郎	海底の祭	1951
駒井 哲郎	夜の魚	1951
駒井 哲郎	時間の迷路	1952
恩地 孝四郎	リリック No.24	1953
浜田 知明	仮標	1954
浜田 知明	刑場 A	1954
瑛九	航海	1956
浜田 知明	人	1956
瑛九	舞台のピエロ	1957
北川 民次	浴み	1957
浜田 知明	地方名士	1958
駒井 哲郎	蝕果実	1960
浜口 陽三	黒いさくらんぼ	1961
長谷川 潔	飾り棚のオブジェ	1962
浜田 知明	かげ	1962
清宮 質文	いずこへ	1963
池田 満寿夫	タエコの朝食	1963
加納 光於	PENINSULAR 半島状の! No.6	1967
吉原 英雄	シーソー1	1968
髪嘸	グッドバイ・ムッシュ・ゴーギャン	1973
棟方 志功	華狩頌	1954

前室1 新収蔵作品展(木村美保子氏寄贈)

<考古資料>

嵌玉細字文花菱文鏡 戦国-前漢(紀元前5-前1世紀)	1937
方格規矩蟠螭文鏡 前漢(紀元前2-前1世紀)	1937
双獸竹林花卉文鏡 唐(7-9世紀)	1937
方格規矩四神鏡 後漢(1-3世紀)	1937
仙宮鏡 高麗(10-14世紀)	1937
方格規矩渦文鏡 古墳時代(3-6世紀)	1937
三角縁神獸鏡 古墳時代(3-6世紀)	1937
五鈴獸形鏡 古墳時代(4-5世紀)	1937
蓬萊鏡 平安後期(12世紀)	1937
松喰鶴方鏡 平安後期(12世紀)	1937
洲浜秋草双鳥鏡 鎌倉時代(12-14世紀)	1937

3室 新収蔵作品展(木村美保子氏寄贈)

長谷川 利行 花・花	1937
香月 泰男 海(ペーチカ)	1966
須田 剋太 村祭	1985
須田 剋太 東大寺椿	1989
須田 剋太 勲章児	1985
須田 剋太 おむすび	1988
須田 剋太 雪の東大寺	1986
須田 剋太 神戸夜景	1979
熊谷 守一 小牛(牧場)	1951
熊谷 守一 三毛猫(眠り)	1965

熊谷 守一 海の図(鯉)	1957
熊谷 守一 猫	1963
熊谷 守一 百日草	1959
熊谷 守一 梅	1956
横井 礼以 石楠花	1939
横井 礼以 山つつぢ	制作年不詳
横井 礼以 綿羊	制作年不詳
尾崎 良二 ニューギニア並木	1972
尾崎 良二 魚紋	1990

4室 新収蔵作品展(木村美保子氏寄贈)
◎重要文化財

山本 梅逸 蓬萊山水図 江戸時代(1837)	1937
与謝 蕪村 ◎富嶽列松図 江戸時代(明和7-安永6)	1937
与謝 蕪村 盆踊り図 江戸時代	1937
浦上 玉堂 ◎山紅於染図 江戸時代(1818)	1937
浦上 玉堂 ◎秋色半分図 江戸時代(1818)	1937
浦上 玉堂 ◎酔雲醒月図 江戸時代(1818)	1937
浦上 玉堂 ◎山水図 江戸時代(1818)	1937
浦上 玉堂 ◎五言絶句 江戸時代(1818)	1937
浦上 玉堂 閣日微陰図 江戸時代(1800-1810年代)	1937
浦上 玉堂 雲山模糊図 江戸時代(1800-1810年代)	1937
浦上 玉堂 月晴山更静独姿平遠図 江戸時代(19世紀始め)	1937
浦上 玉堂 高下数家図 江戸時代(1810-1820年代)	1937
伊藤 若冲 戯画六歌仙図 江戸時代(18世紀)	1937
曾我 蕭白 寒山拾得図 江戸時代(18世紀)	1937

小川 芋銭 海鳥秋来稿本 1932以前	1932以前
小川 芋銭 カイツブリの雛とカッパ 制作年不詳	制作年不詳
富岡 鉄斎 暁山雲図 1923	1923
富岡 鉄斎 虎僊育虎子図 1914	1914
土田 麦僊 春昼 制作年不詳	制作年不詳
村上 華岳 草と虫 制作年不詳	制作年不詳

<古美術> 中広銅矛
弥生時代(BC1-AD1世紀)

<漆工> 楼閣人物螺鈿高卓 明代(15-16世紀)	1937
<竹工芸> 華籠 室町時代(15-16世紀)	1937
<能面> 増女 制作年不詳	制作年不詳
初代伊賀守金道 槍 桃山-江戸時代(16-17世紀)	1937
小山 富士夫 種子島茶碗 銘月世界 1970年代	1970年代
小山 富士夫 刷毛目茶碗 銘留守観音 1970年代	1970年代
<陶磁器> 志野茶碗 銘鵬 桃山時代(16-17世紀)	1937
<陶磁器> 黒織部茶碗 銘菱餅 桃山時代(17世紀)	1937
初代 楽 長次郎 黒楽筒茶碗 銘苔清水 桃山時代(16世紀)	1937
<経巻> 紺紙銀字華嚴経(二月堂巻経)断巻 奈良時代(8世紀)	1937
<経巻> 紺紙金字解脱道論巻七 平安時代(12世紀)	1937

5室 20世紀の美術

パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女 1902	1902
ピエール・ボナール 子供と猫 1906頃	1906頃
グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903	1903
アメデオ・モディリアーニ 黒い瞳の女 1918 寄託作品	1918 寄託作品
アメデオ・モディリアーニ カリアティード 1911-1913	1911-1913

藤田 嗣治	青衣の少女	1925
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
エドゥワール・ヴェイヤール	窓辺の女	1898
フランティシェク・クプカ	灰色と金色の展開	1919
エミール・ノルデ	静物I(アマゾン、能面等)	1915
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
エルンスト・ルヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
ジャーコモ・バッラ	太陽の前を通過する水星(習作)	1914
アンリ・マティス	待つ	1921-1922
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
〈彫刻〉		
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
(新収蔵作品展)		
加納 光於	流動のセミアティック	1982
杉戸 洋	the Rainbow Wall	2002
杉戸 洋	the Second Lounge	2002
杉戸 洋	the Wave	2002

中村 一美	破舎仏涅槃図	1993-1995
田淵 安一	鬼に金棒	1953
田淵 安一	饗宴 VI	1966
田淵 安一	七宝の園	1990
田淵 安一	風のしじまNo.1	1991
松永 久	切断-B	1975
松永 久	相-A	2002
松永 久	相-B	2002
6室 テーマ展 中條直人 アプリオリ		
中條 直人	アプリオリ III-#37	2000
中條 直人	アプリオリ III-#38	2000
中條 直人	Divided into Three Equal Parts - Clone - A Priori V	2000
中條 直人	the Second Creation - A Priori V	2000
7室 新収蔵作品展		
黒崎 彰	四つの風	1999
秋岡 美帆	ゆるるかぜ	1991
吉岡 弘昭	変身シリーズNo.1	1969
吉岡 弘昭	蜘蛛の詩人	1971
吉岡 弘昭	メモリー(レッド)	1972
吉岡 弘昭	Qの像	1973
吉岡 弘昭	GON&BEN (YELLOW)	1976
吉岡 弘昭	二人の悪漢	1978
吉岡 弘昭	SUNDAY PAINTING	1971
吉岡 弘昭	23番街の悪漢	1981

吉岡 弘昭	人と花火	1983
吉岡 弘昭	The Dog (Gray)	1986
吉岡 弘昭	食卓の人(3人)	1988
吉岡 弘昭	寓意のものたちB	1993
吉岡 弘昭	THE DOG (2003) 佐喜真美術館の犬	2003
〈素描〉		
柳原 義達	裸婦 10点	1990-1993
柳原 義達	鳩 6点	1991-1993
8室 新収蔵作品展		
パブロ・ピカソ	蜘蛛(ビュフォン【博物誌】より)	1942
マルク・シャガール	主に呼ばれるサムエル(【聖書】より) 1931-1939/1952-1956	
ヘンリー・ミラー	仮面をかぶった顔	1968
ジャン=ピエール・カシニョール	夜のヌイ	1978
幾嘯	海野原Ⅲ	1978
得田 壽之	作品F	1966
オノサト・トシノブ	ポスター	1969
オノサト・トシノブ	ポスター	1969
佃 政道	高野山不動堂	1965
佃 政道	東大寺転害門	1970
佃 政道	春日大社	1988
佃 政道	耳成山	1970
佃 政道	興福寺南円堂	1970
佃 政道	観心寺本堂	1962
佃 政道	松陰	1966

佃 政道	菟陀血原	1983
佃 政道	後楽園陰陽石	1980
佃 政道	不動明王	制作年不詳
佃 政道	慈光院庭園	1966
佃 政道	唐招提寺講堂	1955
佃 政道	天王墓地	1986
佃 政道	浄瑠璃寺	1971
佃 政道	備前牛窓	1985
佃 政道	瀬戸の裏街	1987
佃 政道	曾爾	1986
佃 政道	大島岩礁	1986
佃 政道	吉野水分神社	1977
佃 政道	吉備津御釜殿	1969
佃 政道	桂離宮	1964
佃 政道	滝原宮	1980
佃 政道	喜佐谷	1984
佃 政道	当麻寺曼陀羅堂	1969

前室2、ロビー、ラウンジ

〈絵 画〉

大沢 鉦一郎	大曾根風景	1919
岸田 劉生	高須光治君之肖像	1915
北川 民次	タスコからの眺望	1933
杉本 健吉	正倉院	1976
杉本 健吉	宇治川	1973

杉本 健吉	阿修羅像	1958
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
〈彫刻・立体〉		
アレクサンダー・コルダ	片膝ついて	1944
舟越 桂	肩で眠る月	1996
野水 信	コの記号 65-3	1965

テーマ展（小企画展）

『中條直人ーアプリオリ Naohito Nakajo - A PRIORI』

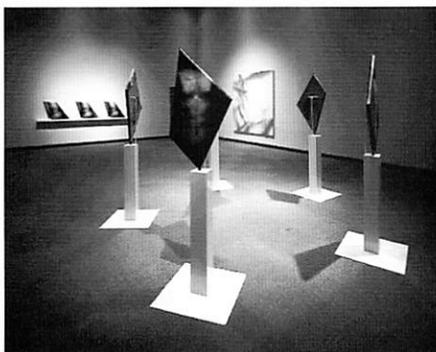
会期 3月6日ー3月28日

会場 展示室6

担当学芸員 拝戸雅彦

出品点数 4点

愛知県美術館ではこの地域の若い作家の活動を紹介するテーマ展を、杉戸洋（2001年）、加藤豪（2002年）と開催してきた。今回の中條直人は1960年に三重県に生まれ、1985年に愛知県立芸術大学美術学部油画科を卒業して、愛知県で制作活動が続ける画家である。大学を卒業してまもなくから名古屋市内の画廊で定期的に発表して、早くからこの地方で頭角を現している。現在の制作に直接的に繋がる転機となる作品は、色彩の中でも血液の色彩である「赤色」の普遍的にも見える作用に注目して、京都の画廊で『赤 1995』の作品を発表したのが1995年のことであった。以後、「赤色」を見た時に我々が感じてしまう「恐れ」や「温かみ」といった相反するような人間の不思議な感情は、あらかじめ（アプリオリに）脳に記憶されている、と考える「アプリオリ」のシリーズを1997年から開始した。今回は、血液という身近な問題をより具体的に展開させて、実現可能なところまで到達した人間のクローニング技術を主題とした作品を発表した。美術史的にも多くの画家がこれまでに自画像を描いてきたが、中條は自らの姿をオリジナルとして、同じ血液を共有したクローン人間を複数描き、人間社会の近未来的なヴィジョンを提示した。これは同時に思想や我々が抱えた問題に対して、絵画をどう使うか、という提案でもあった。絵画術を単なる美的な鑑賞物や自己表現の産物とするのではなく、絵画を言語と同様、思想のメディアとして捉える大胆な試みでもある。新しい考え方に基づく、普段は見慣れない絵画の展示方法であったが、多数の入場者があった。



その他

『<響きの森>小杉武久 サウンド・インスタレーション』

会期 2003（平成15）年12月5日（金）～21日（日）

会場 展示室3およびラウンジ

主催 愛知芸術文化センター企画事業実行委員会、愛知県美術館

企画制作 愛知県文化情報センター

入場者数 1,149人

出品点数 5点

音楽や映像などのジャンルで企画事業を行なっている愛知県文化情報センターの2003（平成15）年度企画として、「風の響き」をテーマに、多様な角度から音楽の新しい可能性や音の楽しさを伝える催しが計画され、愛知芸術文化センター企画事業実行委員会と愛知県美術館の共催で「小杉武久サウンド・インスタレーション」を展示室3および隣接するラウンジで開催した。風の音そのものや風などを使って音を生じさせる新しい表現として、音楽家の小杉武久による音の美術作品は、「風」「電波」など見えないものが関わって生み出す音（聴覚）と、「映像」や「扇風機」などの見えるもの（視覚）が、一体となったものであった。年末という時期にも関わらず、入場無料ということで、また同時期に文化情報センターが関わる「ブラッケージ・アイズ2003-2004関連展示」や「大名古屋展」が開催された相乗効果により、普段の美術展鑑賞者だけでなく予想以上の数の観客が訪れた。



企画展

1992年度から2003年度までの企画展一覧

年度	展覧会タイトル	会期		日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)
92年度	フォーヴィスムと日本近代洋画	92.10.30	92.12.20	45	41,343	918.7
	近代の日本画－西洋との出会いと対話	93.01.05	93.02.11	33	26,166	792.9
	20世紀愛知の美術	93.02.19	93.03.21	27	11,585	429.1
	年度合計			105	79,094	753.3
93年度	パウル・クレーの芸術	93.04.02	93.05.23	45	103,239	2294.2
	小川芋銭展	93.06.04	93.07.04	27	26,106	966.9
	現代の陶芸1950－1990展	93.07.16	93.08.22	33	13,153	398.6
	安田鞞彦展	93.09.03	93.10.17	39	43,003	1102.6
	リール市美術館所蔵－バロック・ロココの絵画	93.10.29	94.01.16	63	47,042	746.7
	戸張孤雁と大正期の彫刻	94.01.25	94.03.06	36	7,996	222.1
	色彩の宇宙 クブカ展	94.03.18	94.05.08	45	33,652	747.8
	年度合計			288	274,191	952.1
累 計				393	353,285	898.9
94年度	杉本健吉展	94.05.14	94.06.02	17	19,568	1151.1
	シカゴ美術館展－近代絵画の100年－	94.06.10	94.07.24	38	89,204	2347.5
	レジェ展	94.08.05	94.09.11	33	22,793	690.7
	聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵－アーヘン市立ズエルモント＝ルドヴィヒ美術館所蔵	94.09.23	94.11.03	37	27,976	756.1
	没後20年 香月泰男展	94.11.18	95.01.16	46	27,164	590.5
	アンドリュウ・ワイエス展－アメリカの郷愁 心の風景を描く	95.02.03	95.04.02	51	120,177	2356.4
	年度合計			222	306,882	1382.4
累 計				615	660,167	1073.4
95年度	ウィーンのジャポニスム	95.04.11	95.05.14	30	27,803	926.8
	フランツ・ゲルチュ	95.05.26	95.07.02	33	22,392	678.5
	還流－日韓現代美術展	95.07.14	95.09.03	45	25,072	557.2
	ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図	95.09.15	95.10.15	27	68,439	2534.8
	表現主義彫刻	95.10.27	96.01.15	64	12,428	194.2
	リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点	96.02.02	96.04.07	57	16,599	291.2
	年度合計			256	172,733	674.7
累 計				871	832,900	956.3
96年度	大英博物館所蔵イタリア素描展	96.04.19	96.05.26	33	30,973	938.6
	抽象表現主義展－アメリカ黄金期の絵画	96.07.26	96.09.16	46	19,005	413.2
	富岡鉄斎展－理想郷を語る	96.09.27	96.11.10	39	25,680	658.5
	北川民次展－愛と人間をえがく	96.11.22	97.01.26	51	28,789	564.5
	カンディンスキーとミュンター 愛と創造の日々 1901-1917	97.02.08	97.03.16	32	22,891	715.3
	没後50年 ボナール展	97.03.28	97.05.18	45	54,094	1202.1
	年度合計			246	181,432	737.5
累 計				1,117	1,014,332	908.1
97年度	理智と幻想のシュルレアリスト 北脇 昇展	97.05.30	97.07.13	39	15,951	409.0
	モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展	97.07.25	97.08.31	33	54,835	1661.7
	20世紀美術の冒険－セザンヌ、ファン、ゴッホから現在まで－アムステルダム市立美術館コレクション展	97.09.12	97.11.03	46	31,750	690.2
	イタリア美術 1945－1995 ー見えるものと見えないもの	97.11.14	98.01.15	48	16,739	348.7
	近代美術の100年－愛知県美術館コレクションの精華－	98.01.30	98.03.08	33	17,985	545.0
	川合玉堂展 ーめぐりゆく季節ー	98.03.20	98.05.05	41	70,936	1730.1
	年度合計			240	208,196	867.5
累 計				1,357	1,222,528	900.9

年度	展 覧 会 タ イ ト ル	会 期		日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)
98年度	久野真・庄司達展－鉄の絵画と布の彫刻－	98.05.15	98.06.07	21	10,236	487.4
	ナイアガラの虹を越えて… オルブライト＝ノックス美術館展 名画への誘い	98.06.19	98.08.02	39	66,342	1701.1
	生誕100年記念 佐伯祐三展	98.08.16	98.09.27	37	39,972	1080.3
	アルトゥング展	98.10.09	98.12.13	57	18,845	330.6
	没後50年 松本竣介展	99.01.08	99.02.21	39	24,551	629.5
	ブッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密	99.03.05	99.04.11	33	13,387	405.7
	年度合計			226	173,333	767.0
	累 計			1,583	1,395,861	881.8
99年度	魔法の庭…詩とかたちのフーガ「ファウスト・メロッチェ展」	99.04.23	99.06.13	45	13,614	302.5
	前田寛治の芸術 ー詩情と造形ー	99.07.02	99.08.22	45	14,851	330.0
	危機の時代と絵画 1930－1945	98.09.03	98.10.17	39	8,379	214.8
	生誕100年 関根正二展	99.10.29	99.12.12	39	22,719	582.5
	セザンヌ展	00.01.05	00.03.12	59	171,060	2899.3
	年度合計			227	230,623	1016.0
	累 計			1,810	1,626,484	898.6
00年度	レンブラント・フェルメールとその時代 アムステルダム国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術展	00.04.07	00.06.18	63	104,226	1654.4
	田中恭吉展	00.07.15	00.08.27	38	22,788	599.7
	加納光於展	00.09.15	00.11.05	45	11,606	257.9
	アメリカン・ドリームの世紀展	00.11.23	01.01.28	52	25,390	488.3
	岸田劉生展	01.02.09	01.04.01	45	38,752	861.2
	年度合計			243	202,762	834.4
	累 計			2,053	1,829,246	891.0
01年度	メルツバッハー・コレクション展	01.04.13	01.05.27	39	47,245	1211.4
	ロダンと日本	01.06.22	01.08.19	51	57,339	1124.3
	バックミンスター・フラワー展	01.09.14	01.11.04	45	10,962	243.6
	ボンベイ展	02.02.08	02.04.07	51	101,367	1987.6
	年度合計			186	216,913	1166.2
	累 計			2,239	2,046,159	913.9
02年度	開館10周年記念 大英博物館所蔵フランス素描展	02.04.26	02.06.30	57	25,638	449.8
	開館10周年記念 韓国の色と光	02.07.26	02.09.23	52	10,652	204.8
	開館10周年記念 ミロ展	02.10.04	02.12.01	51	83,084	1629.1
	開館10周年記念 中西夏之展 広さと近さー絵の姿形	02.12.20	03.02.23	51	14,525	284.8
	年度合計			211	133,899	634.6
	累 計			2,450	2,180,058	889.8
03年度	菱田春草展	03.04.11	03.05.18	33	53,578	1623.6
	戸谷成雄ー森の襲の行方	03.06.06	03.07.27	45	12,934	287.4
	レオン・スピリアールト展	03.08.05	03.09.23	43	15,674	364.5
	空海と高野山	03.10.10	03.11.24	40	109,612	2740.3
	中村彝の全貌展	04.01.06	04.02.29	48	20,004	416.8
	年度合計			209	211,802	1013.4
	累 計			2,659	2,391,860	899.5

2003(平成15)年度の企画展開催状況

『菱田春草展』

会期 2003年4月11日(金)～5月18日(日) 31日間
主催 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送
後援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
(団体・前売りは200円引き)
担当学芸員 村田真宏、高橋秀治
総入場者数：53,578人(1日平均入場者数：1,623人)

内容 出品点数：78件84点

菱田春草(1874-1911)は、横山大観とともに明治後半の日本画の確立期に重要な活動を行った画家として知られる。彼は色面のぼかしによる効果を活かした「朦朧(もうろう)体」の表現などを試み、やがて色彩や線描の効果を造形的に総合して、近代の日本画と呼ぶにふさわしい絵画を完成した。本展は、春草の初期から晩年までの制作の展開を体系的にたどるとともに、とくに代表作《落葉》については重要文化財に指定されている作品をはじめ、現在遺されている5点の屏風作品を同時に展示する機会を設けた。さらに《落葉》と関連する作品なども展示し、この時期の制作を比較研究できる展示構成を行い、より研究的な視点からの鑑賞が可能となるよう配慮した。その結果、多数の観客の来場があっただけでなく、美術館関係者や研究者などの専門的な人々の来館も多くあり、展覧会の開催意義についての理解と好評を得ることができた。

主要関連記事

【新聞】

- 山脇佐江子 「美術 日本画の伝統と革新格闘 菱田春草展」
『日本経済新聞』2003年4月24日夕刊
- (無記名) 「名作『落葉』全5点並ぶ 名古屋で菱田春草展」
『信濃毎日新聞』2003年4月26日夕刊
- 村田真宏 「名古屋で菱田春草回顧展 現存の『落葉』
すべて展示」
『東京新聞』2003年4月26日夕刊
- 村田真宏 「西洋と日本 融合の到達点 菱田春草展落葉に
ついて」
『中日新聞』2003年5月1日夕刊
- (無記名) 「『落葉』5点勢ぞろい」
『中日新聞』2003年5月1日朝刊
- (無記名) 「境界表現の進化を見る 菱田春草展」
『日本経済新聞』2003年5月1日夕刊



- (無記名) 「話題 春草の「落葉」そろいぶみ」
『京都新聞』2003年5月3日朝刊
- 三沢典丈 「やわらかさに潜む技」
『中日新聞』2003年5月12日夕刊
- 高橋秀治 「日本画の理想を求めて 菱田春草展①《水鏡》」
『中日新聞』2003年5月7日朝刊
- 高橋秀治 「日本画の理想を求めて 菱田春草展②《拈華微笑》」
『中日新聞』2003年5月8日朝刊
- 村田真宏 「日本画の理想を求めて 菱田春草展③《賢首菩薩》」
『中日新聞』2003年5月9日朝刊
- 村田真宏 「日本画の理想を求めて 菱田春草展④《秋林遊鹿》」
『中日新聞』2003年5月10日朝刊
- 村田真宏 「日本画の理想を求めて 菱田春草展⑤《かけす》」
『中日新聞』2003年5月11日朝刊
- 宝玉正彦 「革新の熱意、初々しい筆致 菱田春草展」
『日本経済新聞』2002年5月7日朝刊
- 北野 輝 「新しい自然感覚と装飾性」
『赤旗』2002年5月14日朝刊

【雑誌】

- (無記名) 「不熟が導いた新境地 菱田春草と日本画の近代化」
雑誌『一個人』2003年5月号
- (無記名) 「サライ・インフォメーション 催しもの20年ぶりの菱田春草回顧展で傑作『落葉』の全作品が揃う」
『サライ』2003年5月号

『戸谷成雄—森の襲の行方』展

会期 2003年6月6日(金)～7月27日(日)45日間
主催 愛知県美術館／朝日新聞社
後援 愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市各教育委員会
助成 財団法人地域創造
協力 SHUGOARTS、KENJI TAKI GALLERY
観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
(団体・前売りは200円引き)

担当学芸員 拝戸雅彦、鯨井秀伸、村田真宏
総入場者数：12,934人(1日平均入場者数：287人)

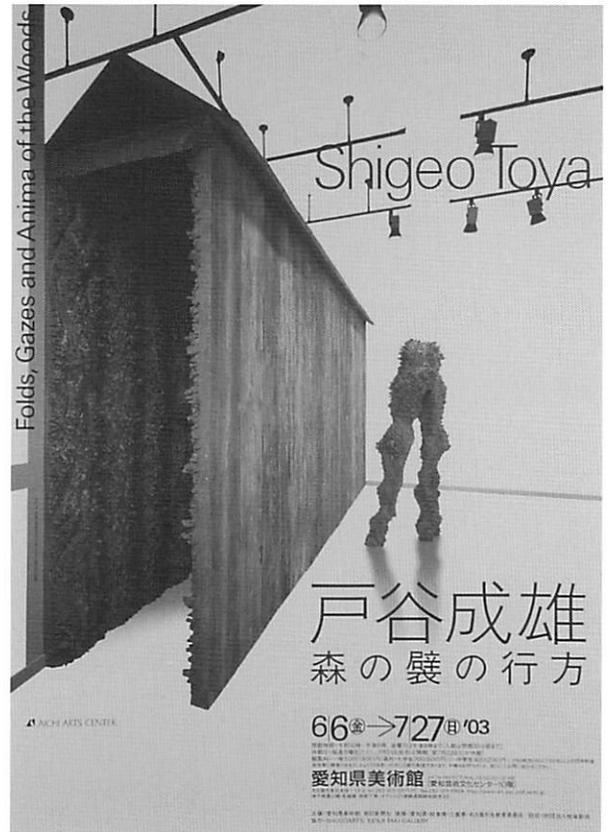
内容 出品点数：立体作品22、素描33点

1947年に長野県に生まれ、愛知県立芸術大学彫刻科を卒業した戸谷成雄(埼玉県在住)は、従来のヨーロッパ的な彫刻とは異なる原理を模索し、制作を続ける作家である。70年代の実験的作風を経て、1984年に始まるチェーンソーで木のかたまりを彫り刻む「森」シリーズは、彫刻の概念や技法を検証・再構築したユニークな彫刻作品として、広く海外にも知られている。1988年にはイタリアのヴェネツィア・ビエンナーレにも出品するなど、海外のグループ展にも数多く参加し、現代日本を代表する彫刻家となっている。いまなお、西洋と東洋の美術構造を再検証しつつ、時代の社会構造を彫刻に反映・内包させて、大胆な実験的作品を制作する戸谷成雄の先鋭的かつ重層的な彫刻世界を、「森シリーズ」以降の近作と新作で紹介した。これは1995年に開催された広島市現代美術館での近作展以来の、大規模な個展となった。なお、この展覧会の実績が認められ、戸谷成雄氏は平成16年度の芸術選奨文部科学大臣賞を受賞された。

主要関連記事

【新聞】

- 佐藤雄二 『今回の作家展』『戸谷成雄展』 「POP空間」
『朝日新聞』2003年5月30日夕刊
- 三田晴夫 「戸谷成雄の彫刻」 「現代アート考」
『毎日新聞』2003年6月16日夕刊
- 拝戸雅彦 「森の襲の行方 上 (森の象の窓の死)」
『朝日新聞』2003年6月18日朝刊
- 拝戸雅彦 「森の襲の行方 中 (森VIII)」
『朝日新聞』2003年6月19日朝刊
- 拝戸雅彦 「森の襲の行方 下 (見られる扉II)」
『朝日新聞』2003年6月20日朝刊
- 田中三蔵 「神なき時代の「依代」」
『朝日新聞』2003年7月10日夕刊



- 三澤典丈 「戸谷成雄展」
『中日新聞』2003年7月24日夕刊
- 北野輝 「調和的・一体性の蘇生について」
『赤旗』2003年7月23日朝刊
- 太田垣實 「戸谷成雄 森の襲の行方」
『京都新聞』2003年7月12日朝刊
- (無記名) 「戸谷成雄 森の襲の行方」
『新美術新聞』2003年7月11日
- (無記名) 「タイトルなし」
『信濃毎日新聞』2003年6月7日朝刊

【雑誌】

- 金井直 「森化する襲、白化する森—戸谷成雄展」
『REAR』2003年夏号
- 小勝禮子 「美術の制作と受容をめぐる—社会、
ジェンダー、その他の要素」
『REAR』2003年秋号

『レオン・スピリアールト展』

会 期 2003年8月5日(火)～9月23日(火・祝)43日間
主 催 愛知県美術館／中日新聞社
後 援 ベルギー王国大使館／財団法人ベルギーフランドル交
流センター／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教
育委員会
協 力 日本航空
観覧料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円
(団体・前売りは200円引き)
担当学芸員 村上博哉、藤島美菜
総入場者数：15,674人(1日平均入場者数：365人)

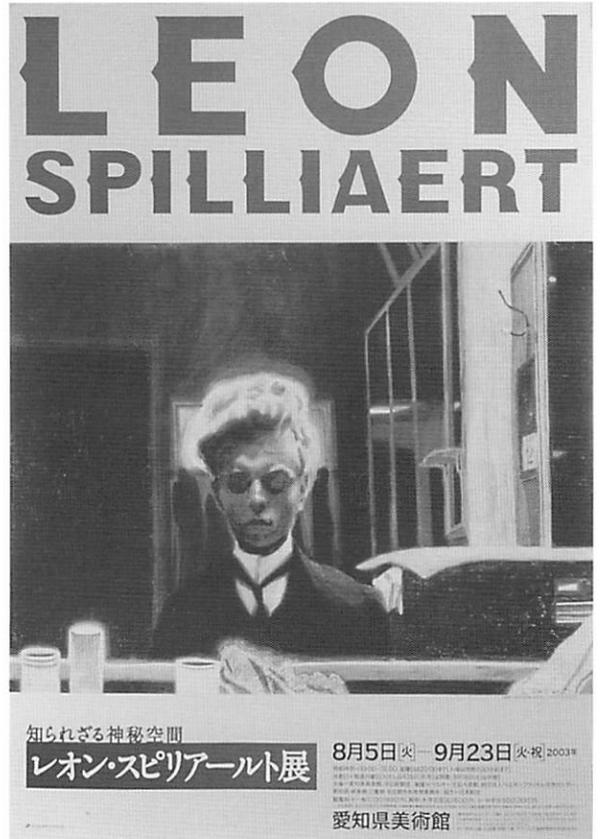
内 容 出品点数：計93点

ベルギー北西部の港町オーステンドに生まれたレオン・スピリアールト(1881-1946)は、ヨーロッパ世紀末芸術の影響を強く受けながら20世紀前半にベルギーで活動し、いかなる流派にも属さず独自の絵画を創造した。平凡な日常の光景にみずからの孤独や不安を投影して、白昼夢のような幻想性をおびた空間に変貌させる彼の作品は、近年欧米を中心に広く注目されている。本展は、スピリアールトの創造力が最もよく発揮された1900年から1913年までの時代を中心に、ベルギー各地の美術館・個人コレクターが所蔵する93点の作品を展示し、これまで日本ではほとんど知られていなかったこの画家の芸術を初めて本格的に紹介した。本展はとりわけ若い世代の鑑賞者に強い反応があり、大学生以下の有料入場者が総入場者の18%という、当館としては異例な高率に達した。

主要関連記事

【新聞】

- 富山秀男 「レオン・スピリアールト展 神秘世界の扉開く」
『中日新聞』2003年7月31日朝刊
「神秘の世界 幻想の93点」
『中日新聞』2003年8月6日朝刊
- 松永 真 「知られざる神秘空間
レオン・スピリアールト展 上《めまい》」
『中日新聞』2003年8月19日夕刊
- 藤森兼明 「知られざる神秘空間
レオン・スピリアールト展 中《ピエタ》」
『中日新聞』2003年8月20日夕刊
- 饗庭孝男 「知られざる神秘空間
レオン・スピリアールト展 下《防火林》」
『中日新聞』2003年8月21日夕刊



- 山脇佐江子 「レオン・スピリアート展 身近な題材、
幻想的な世界」
『日本経済新聞』2003年8月21日夕刊
- 村上博哉 「知られざる神秘空間 レオン・スピリアート
展 ①～⑤」(5回連載)
『中日新聞』2003年8月30-31日、9月2-4日朝刊
- 後藤厚三 「幻想の世界解説 レオン・スピリアート展
記念講演」
『中日新聞』2003年9月7日朝刊
- 宮城島喜弘 「レオン・スピリアート展」
『中日新聞』2003年9月9日朝刊

【雑誌】

- (無記名) 「風景に心を託した西洋の画家
レオン・スピリアート」
『美術の窓』2003年12月号

弘法大師入唐1200年記念『空海と高野山』展

- 会期 2003年10月10日（金）～2003年11月24日（月・振休）
40日間
- 主催 愛知県美術館／高野山真言宗総本山金剛峰寺／財団法人高野山文化財保存会／NHK名古屋放送局／NHK中部ブレイズ
- 後援 文化庁／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
- 特別協賛 南海電気鉄道株式会社
- 協賛 日本写真印刷株式会社／三井住友海上火災保険株式会社／株式会社アーテファクトリー
- 協力 日本通運／セラータムテクノロジー
- 制作協力 NHKきんきメディアプラン
- 観覧料 一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
(団体・前売りは200円引き)
- 担当学芸員 深山孝彰、馬淵美帆、村田真宏
- 総入場者数：109,512人（1日平均入場者数：2,740人）

内容 出品点数：計145点

高野山は、弘法大師空海によって真言密教の根本道場と定められ、816年（弘仁7）に伽藍の造営が開始された。以来、高野山は幾多の盛衰を経ながらも仏教文化の発信地として発展し、また密教美術の創造にとどまらず、皇族や武家などから寄進された品々や各地での戦乱を逃れた宝物を守り伝える文化財の殿堂ともなっている。本展は空海が密教を求め唐に渡ってから1200年に当たることを記念し、高野山の国宝のうち2件の建造物を除く21件すべてと重要文化財96件を含む145件により、高野山の宝物の全容を紹介する初めての機会であった。当館では初めてとなる日本の古美術展であったが、共催の博物館とともに準備調査を行い、また会場では彫刻の配置や照明、色を抑えた造作など、作品の見やすさを心がけた展示も高く評価された。

主要関連記事

【新聞】

- (無記名) 「金剛峯寺の国宝21点初めて展示」
『日本経済新聞』2003年10月23日（木）夕刊
- 三沢典丈 「ケースなし、生で対面
仏教彫刻を美術品として鑑賞」
『中日新聞』2003年11月13日（木）夕刊



『中村 彝の全貌』展

会 期 2004年1月6日(火)～2004年2月29日(日) 48日間

主 催 愛知県美術館／中日新聞社

後 援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

観覧料 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
(団体・前売りは200円引き)

担当学芸員 本本文平、鯨井秀伸

総入場者数：20,004人（1日平均入場者数：416.8人）

内 容 出品点数：計131点

中村 彝（1887－1924）は、明治の終わり、日本の美術界に彗星のように現われ、輝かしい作品を残しながら、大正という時代を駆け抜け、僅か37歳と5ヶ月で生涯を閉じた洋画家である。彝はレンブラントやルノワール、セザンヌなどの西洋の絵画に傾倒し、対象のもつ生命感や深い内省的な世界を描き出す独自の画風を確立。本展は、初期から晩年に至る代表的な油彩画作品を中心に、彼の画業の全貌を紹介した。今回の展覧会では、中村 彝の描いた作品のうち、所在の判明している140数点のほとんどが展示された。構成は第1章画家としての出発（1907－1911年）、第2章中村屋サロン（1912－1915年）、第3章闘病、下落合のアトリエ（1916－1922年）、第4章生命、燃え尽きるまで（1923－1924年）の4部構成とし、第1章から3章に関しては主に住んだ場所及び作風により、第4章に関しては、画風を大きく展開させた関東大震災により区分した。東海地方では、没後70年記念として三重県立美術館で開催されて以来10年ぶり、また、愛知県としては初めての回顧展として話題となった。

主要関連記事

【新聞】

浅野 徹 「美術 かげりなき生命の賛歌 中村 彝の全貌展」

『中日新聞』2004年1月7日朝刊

山脇佐江子 「中村 彝の全貌展 日本近代洋画、

青年期のときめき」

『日本経済新聞』2004年1月22日夕刊

市川政憲 「高揚する生の輝き 中村 彝の全貌展」

『中日新聞』2004年1月22日朝刊

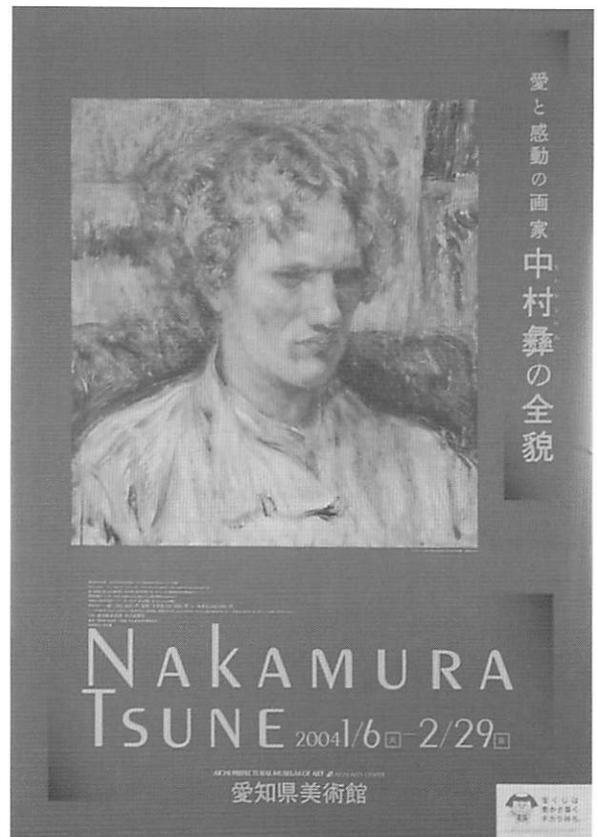
鯨井秀伸 「中村 彝の全貌上 《自画像》」

『中日新聞』2004年1月28日朝刊

鯨井秀伸 「中村 彝の全貌中 《婦人像》」

『中日新聞』2004年1月29日朝刊

鯨井秀伸 「中村 彝の全貌下 《エロシェンコ氏の像》」



『中日新聞』2004年1月30日朝刊

高階秀爾 「美の現在 中村 彝の全貌展 大家の技法ひたむきに吸収 目に見える世界超えた表現」

『朝日新聞』2004年2月2日朝刊

山口泰二 「アートプリズム 中村 彝の全貌展 残る命への深い哀惜」

『しんぶん 赤旗』2004年2月8日朝刊

太田垣 實 「生命の芸術を追求 中村 彝の全貌展」

『京都新聞』2004年2月14日朝刊

移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会などの事業を行う移動美術館を年1回開催している。これまで8回開催し、本年度は西尾市で開催した。

- 第1回 1995年度 南知多町総合体育館・サブアリーナ
- 第2回 1996年度 足助町トレーニングセンター
- 第3回 1997年度 渥美町郷土資料館
- 第4回 1998年度 奥三河総合センター体育館（設楽町）
- 第5回 1999年度 吉良町農村環境改善センター
- 第6回 2000年度 新城文化会館（新城市）
- 第7回 2001年度 立田村総合体育館
- 第8回 2002年度 高浜市やきもの里かわら美術館

名称：愛知県美術館 平成15年度 移動美術館

「美術館がやってきた」

主催：愛知県美術館、(財)愛知県文化振興事業団、西尾市・西尾市教育委員会

会期：平成15年10月4日（土）～13日（月・祝）〔9日間〕

会場：西尾市総合体育館

観覧料：無料

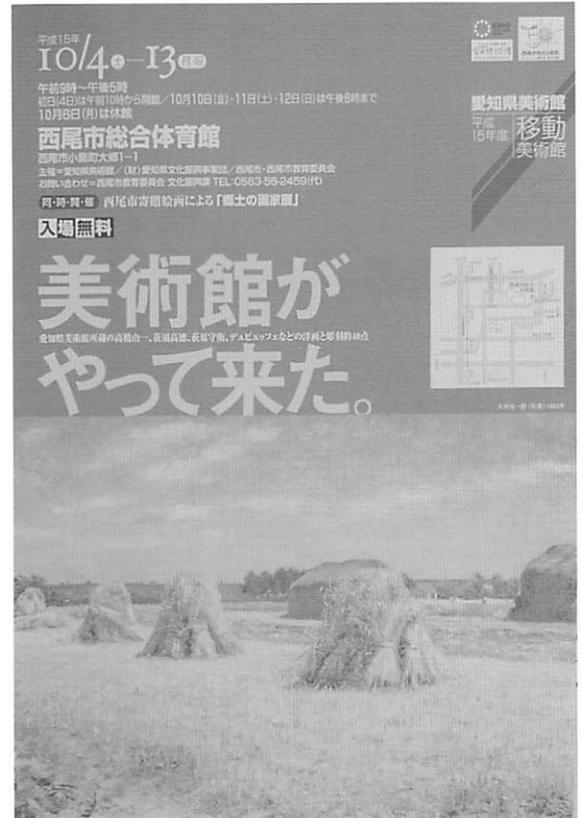
担当学芸員：古田 浩俊、村上 博哉

観覧者数：6,016人（1日平均668人）

展示内容および展示点数：

明治から現代の洋画を中心に彫刻と海外の作品を加えて展示。総点数42点。

1	エドワード=ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891年
2	梅原 龍三郎	若き羅馬人	1909年
3	宮脇 晴	自画像	1920年
4	佐分 真	裸婦	1925年頃
5	アンドレ・ポーシャン	フィアンセを訪ねて	1928年
6	里見 勝蔵	裸婦	1930年
7	鬼頭 鍋三郎	二人のパレリーナ	1952年
8	桂 ゆき	人と魚	1954年
9	鳥海 青児	うずくまる	1954年
10	小磯 良平	婦人像	1965年
11	斉藤 吾郎	屋根の上の記念撮影	1973年
12	三尾 公三	鏡の前	1982年
13	高橋 由一	厨房具	1878年頃
14	黒田 清輝	花と猫	1906年



15	北川	民次	南国の花	1940年
16	矢橋	六郎	牡丹	1946年
17	三岸	節子	魚とインカの壺	1952年
18	須田	国太郎	樹下	1954年
19	金山	康喜	静物	1956年
20	上田	薫	なま玉子G	1976年
21	笠井	誠一	ウクレレと冬瓜とグロリオサのある卓上静物	1995年
22	久米	桂一郎	秋景	1892年
23	大沢	鉦一郎	大曾根風景	1919年
24	萬	鉄五郎	水郷風景	1926年
25	岡	鹿之助	窓	1949年
26	林	武	ノートルダム	1960年
27	鳥海	青児	石の街 (ペルー・マスピッチ)	1961年
28	牛島	憲之	埋れる舟	1962年
29	荻須	高德	サンドニ	1964年
30	杉本	健吉	宇治川	1973年
31	櫃田	伸也	通り過ぎた風景	1982年
32	村井	正誠	天使	1950年
33	ジャン・デュビュッフェ		二人の脱走兵	1953年
34	瑛九		黄色い花	1957年
35	難波田	龍起	萌	1961年
36	ジョーゼフ・アルバース		正方形顔	1962年
37	中西	夏之	紫・むらさき X IX	1983年
38	エミール・アントワーン・ブルデル		両手のベートーベン	1908年
39	荻原	守衛	女の胴	1907年
40	高田	博厚	女のトルソ	1937年
41	堀内	正和	四角と丸の組み合わせb	1956年
42	北山	善夫	言葉が輝くとき	1987年



教育普及行事

記念講演会

「美術の楽しみ」市川 政憲（愛知県美術館長）

10月4日（土）午前10時～11時

西尾市総合体育館 第3会議室

ギャラリー・トーク（展示解説）：

愛知県美術館学芸員が会場で展示作品の解説

一般向け

10月4日（土）、10月11日（土）

いずれも午後1時30分～2時30分まで

学校向け

西尾市内の小・中学生の学校団体を中心に実施。

教育普及

出版・発行

各企画展カタログ

- ・『菱田春草展』カタログ
30.0×22.5cm 162ページ
編集 村田真宏、高橋秀治（愛知県美術館）
発行 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送
制作 印象社

本文

菱田春草晩年の芸術—五点の《落葉》をめぐって— 村田真宏

図版

第1章 東京美術学校での学習と研究

第2章 朦朧体の試み

第3章 朦朧体の克服、そして名作の誕生へ

主要作品解説 高橋秀治、村田真宏

菱田春草年譜 森美樹、村田真宏、高橋秀治編

菱田春草の言葉—著述と談話

主要参考文献 森美樹、村田真宏、高橋秀治編

出品目録

Hishida Shunso

List of Works

- ・『戸谷成雄—森の巖の行方』展カタログ

29.6×21.2cm 122ページ

編集 押戸雅彦、鯨井秀伸（愛知県美術館）

発行 愛知県美術館

制作 アイメックス・ファイン・アート

本文

《見られる扉Ⅱ》の境界をアンフランマンズに經由して—1990年以降の戸谷成雄 押戸雅彦

図版

出品リスト

戸谷成雄のアンソロジー

略歴、個展歴、グループ展歴

主要文献目録

さまよう森の巖—戸谷成雄 押戸雅彦

The Folds of Meandering Woods:Shigeo Toya Masahiko Haito

- ・『レオン・スピリアールト』展カタログ

24.8×18.9cm 224ページ

編集 福満葉子（石橋財団ブリヂストン美術館）

発行 石橋財団ブリヂストン美術館／姫路市立美術館／愛知県美術館／中日新聞社

制作 アイメックス・ファイン・アート

本文

レオン・スピリアールト—その生涯と作風の展開 アンヌ・アドリアーンズ＝パニエ

海辺の町に夢さすらう人 ノルベルト・ホステン

レオン・スピリアールトの《めまい》をめぐる覚書 福満葉子

レオン・スピリアールトと日本 高木陽子

カタログ

Leon Spilliaert General Profile of the Artist and Chronological Profile of his Oeuvre (Anne Adriaens-Pannier)

Art meets Literature:Spilliaert the Illustrator, Illuminating the Works of Emile Verhaeren and Maurice Maeterlinck (Anne Adriaens-Pannier)

A Visionary Wanderer in a City by the Sea (Norbert Hostyn)

Some Notes on Leon Spilliaert's Vertigo (Yoko Fukumitsu)

Leon Spilliaert and Japan (Yoko Takagi)

年譜

主要文献

- ・『空海と高野山』展カタログ

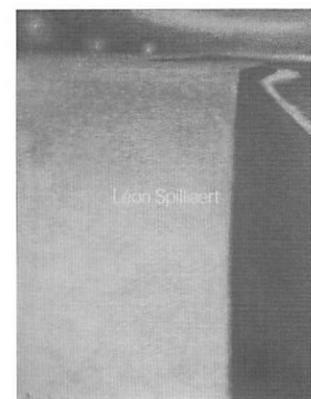
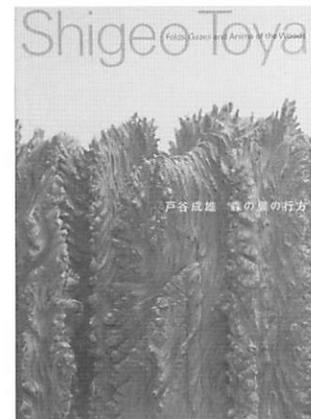
30.0×22.9cm 350ページ

編集：京都国立博物館／愛知県美術館／東京国立博物館／和歌山県立博物館

発行：NHK大阪放送局／NHK きんきメディアプラン

制作：株式会社便利堂

印刷：日本写真印刷株式会社



本文

- 【概論】 空海と日本の密教（末本文美士）
高野山の歴史と弘法大師信仰（井筒信隆）

空海入唐地図

図版

第1章 空海と高野山の歴史

第2章 空海思想と密教のかたち

第3章 信仰の重なりとその美術

第4章 山の正倉院

第5章 近世の高野山

- 【特論】 髻替指帰（赤尾栄慶）
諸尊仏龕（岩佐光晴）
仏涅槃図（泉武夫）
高野山と運慶、快慶（浅湫毅）
遍照光院の大雅の襖絵（狩野博幸）

作品解説

資料図版

高野山略年表

用語解説

出品目録

・『中村彝の全貌』展カタログ

29.0×22.6cm 186ページ

編集 愛知県美術館／茨城県近代美術館／愛媛県美術館／中日新聞社

発行 愛知県美術館／茨城県近代美術館／愛媛県美術館／中日新聞社

制作 印象社

本文

生命の実相—序にかえて（市川政憲）

The Truest Realities of Life-An Introduction（Masanori Ichikawa）

図版・解説

第1章 画家としての出発（1907—1911年）

第2章 中村屋サロン（1912—1915年）

第3章 闘病、下落合のアトリエ（1916—1922年）

第4章 生命、燃え尽きるまで（1923—1924年）

ふぞろいの真珠たち 中村彝＝バロック論（小泉淳一）

中村彝をめぐる批評の揺らぎ—明治末期の批評言説（梶岡秀一）

中村彝と官展（文展・帝展）（本本文平）

中村彝年譜（藤本陽子編）

主要文献目録（鯨井秀伸）

出品目録

・テーマ展『中條直人—アプリアリ』冊子

25.8×18.1cm 10ページ

編集 愛知県美術館／拝戸雅彦

本文

図版

古典的絵画、ナルシストとしてのクローン（拝戸雅彦）

所蔵作品展に関するもの

第Ⅰ期 前期 展示品リスト A4判

第Ⅰ期 後期 展示品リスト A4判

第Ⅱ期 前期 展示品リスト A4判

第Ⅱ期 後期 展示品リスト A4判

第Ⅲ期 前期 展示品リスト A4判

第Ⅲ期 後期 展示品リスト A4判

特集展示「平成15年度 新収蔵作品展」目録

所蔵作品による「日本の戦後美術」ガイド A4判変

企画展鑑賞の手引き等

《菱田春草展》

鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説） A4判2頁

音声ガイド（主要作品の解説）

《戸谷成雄展》

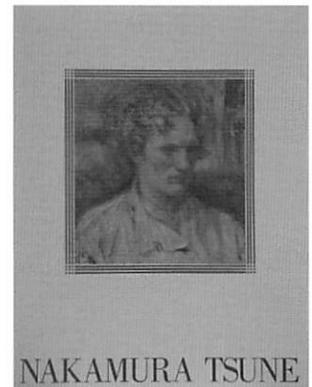
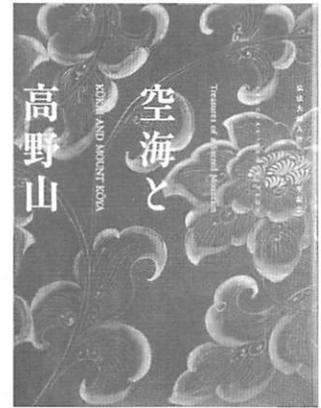
鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説） A4判4頁

《レオン・スピリアールト展》

音声ガイド（主要作品25点の解説）

《空海と高野山展》

鑑賞ガイド（主要な作品シリーズと展示コーナー解説） A4判3折



音声ガイド（主要作品25点の解説）
《中村彝展》
鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）

A4判4頁

ビデオソフトの制作

児童・生徒を対象とした美術館への誘致や、学校団体見学の事前学習用として、美術鑑賞の要点や美術館でのマナー等を案内するビデオソフトを制作した。
「美術館へようこそ！ ～みんなで見よう！発見しよう！～」(約15分)
担当：藤島美菜、深山孝彰

講演会・講座・シンポジウム等

企画展記念講演会

各企画展ごとに研究者や作家あるいは学芸員などが記念講演を行なった。各講演会とも関心が高かったが、特に菱田春草展と空海と高野山展の記念講演会は定員以上の参加申し込みがあった。

- ・『菱田春草展』記念講演会 5月3日（土・祝） 午後1時30分から
演題「菱田春草の世界—名作《落葉》をめぐって—」
講師 村田真宏（愛知県美術館美術課長） 聴講者数260名
- ・『戸谷成雄』展記念講演会
演題「森化する世界」 6月29日（日） 午後1時30分から
講師 戸谷成雄（美術家） 聴講者数126名
- ・『レオン・スピリアルト』展記念講演会 9月6日（土） 午後1時30分から
演題「知られざる神秘空間——レオン・スピリアルトとその時代」
講師 福満葉子（石橋財団ブリヂストン美術館） 聴講者数83名
- ・『空海と高野山』展 記念講演会 10月18日（土） 午後1時30分から
演題「高野山の歴史と文化財」
講師 井筒信隆（高野山霊宝館 主任学芸員） 聴講者数240名
- ・『中村 彝の全貌』展記念講演会 2004年1月24日（土） 午後1時30分から
演題「中村 彝の芸術」
講師 浅野徹（名古屋芸術大学教授／美術評論家） 聴講者数182

連続講座

年に一度、テーマを設定して短期に集中的に講演会を行なう連続講座は、2003（平成15）年度は全体テーマを「高野山の名品」と題して開催した。「空海と高野山」展が大きな反響を呼んでいたこともあり、多数の聴講者があって好評であった。

- 全体テーマ「高野山の名品」
- ・第1回「快慶の阿彌陀如来立像」10月25日（土） 午後1時30分から
講師 村田真宏（愛知県美術館美術課長） 聴講者数131名
 - ・第2回「八大童子立像と運慶」11月1日（土） 午後1時30分から
講師 深山孝彰（愛知県美術館主任学芸員） 聴講者数135名
 - ・第3回「池大雅《山水人物図》」11月8日（土） 午後1時30分から
講師 馬淵美帆（愛知県美術館学芸員） 聴講者数75名
 - ・第4回「高野山の仏画の名品—《仏涅槃図》を中心に」11月15日（土） 午後1時30分から
講師 泉 武夫（京都国立博物館資料管理室長） 聴講者数144名

シンポジウム

『春の愛知県美術館』と銘うった全館所蔵品展のうち展示室1, 2で開催した「日本の戦後美術」に関連して1960年代の美術動向とこの地方の動きに関して、当時を知る作家や美術評論家によるシンポジウムを開催し、この地方の美術の動きを検証した。

テーマ「愛知の60年代」 進行 拝戸雅彦主任学芸員
パネリスト 近藤文雄（美術家）、吉岡弘昭（美術家）、中村英樹（美術評論家）
日時 平成16年3月20日（土） 午後1時30分から 聴講者数89名

レクチャー&トーク

「現代作家 自作を語る シリーズ①」

本年度から所蔵作品の紹介にも重点をおくように、所蔵作品のうちとくに現存作家に自らの制作活動や作品について語ってもらうシリーズを開始した。



『菱田春草展』記念講演会



『戸谷成雄』展記念講演会



『レオン・スピリアルト』展記念講演会



『空海と高野山』展 記念講演会



『中村 彝の全貌』展記念講演会



連続講座 第4回



シンポジウム

演題「絵画について」 2004（平成16）年3月6日（土）午後1時30分から
 講師 中村一美（美術家） 聴講者数 38名
 場所 アートスペースA（愛知芸術文化センター12F）および10階展示室

学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

各企画展ごとに担当学芸員が展示室において展示説明会を約1時間行なっている。

- ・『菱田春草展』展示説明会

第1回	4月17日（木）	午前10時30分から	講師 高橋秀治	聴講者数 50名
第2回	4月19日（土）	午前10時30分から	講師 村田真宏	聴講者数 55名
第3回	5月8日（木）	午前10時30分から	講師 村田真宏	聴講者数 33名
第4回	5月10日（土）	午前10時30分から	講師 高橋秀治	聴講者数 58名
- ・『戸谷成雄』展展示説明会

第1回	6月14日（土）	午後2時から	講師 拝戸雅彦	聴講者数 39名
第2回	6月20日（金）	午後6時から	講師 拝戸雅彦	聴講者数 7名
第3回	7月10日（木）	午前10時30分から	講師 拝戸雅彦	聴講者数 30名
第4回	7月17日（木）	午後2時から	講師 拝戸雅彦	聴講者数 31名
- ・『レオン・スピリアルト』展展示説明会

第1回	8月30日（土）	午前11時から	講師 村上博哉	聴講者数 28名
第2回	9月5日（金）	午前11時から	講師 村上博哉	聴講者数 23名
第3回	9月12日（金）	午前11時から	講師 藤島美菜	聴講者数 11名
- ・『空海と高野山』展展示説明会（スライド・レクチャー）会場 アートスペース

第1回	10月22日（水）	午後1時30分から	講師 深山孝彰	聴講者数 64名
第2回	10月29日（水）	午後1時30分から	講師 深山孝彰	聴講者数 90名
第3回	11月5日（水）	午後1時30分から	講師 深山孝彰	聴講者数 100名
第4回	11月12日（水）	午後1時30分から	講師 深山孝彰	聴講者数 140名
第5回	11月19日（水）	午後1時30分から	講師 深山孝彰	聴講者数 128名
- ・『中村 彝の全貌』展展示説明会（各日2度開催した）

第1回	2004（平成16）年1月10日（土）	午前11時 / 午後2時	講師 木本文平	聴講者数15名 / 20名
第2回	1月16日（金）		講師 鯨井秀伸	聴講者数15名 / 20名
第3回	1月22日（木）		講師 鯨井秀伸	聴講者数20名 / 20名
第4回	1月30日（金）	午後2時 / 午後6時	講師 木本文平	聴講者数18名 / 8名
第5回	2月7日（土）	午前11時 / 午後2時	講師 鯨井秀伸	聴講者数20名 / 30名
第6回	2月10日（火）		講師 村田真宏	聴講者数30名 / 30名
第7回	2月14日（土）		講師 木本文平	聴講者数40名 / 40名
第8回	2月18日（水）		講師 鯨井秀伸	聴講者数20名 / 30名
第9回	2月27日（金）	午後2時 / 午後6時	講師 木本文平	聴講者数30名 / 46名
- ・全館所蔵品展『春の愛知県美術館』のうち「日本の戦後美術」展示説明会

第1回	3月13日（土）	午前11時	講師 古田浩俊	聴講者数12名
第2回	3月27日（土）	午前11時	講師 拝戸雅彦	聴講者数10名

各種プログラム

小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

対象：小学校・中学校・高校の教師

各企画展ごとに展覧会担当者による企画展説明を行うと同時に、美術館や学校での鑑賞教育について、アンケートの実施、実践発表、鑑賞会見学会などを通して、意見交換した。また、展覧会カタログのバックナンバーを参加者の学校図書館へ寄贈を行ない、多数の参加者があった。

- ・『菱田春草展』 5月3日（土） 展覧会説明者 村田真宏 参加者数38名
 内容：利用案内・春休み子ども鑑賞会報告 説明者 高橋秀治／藤島美菜
- ・『戸谷成雄』展 7月5日（土） 展覧会説明者 拝戸雅彦 参加者数97名
 内容：美術科教育学会西部会研究発表大会「美術鑑賞教育の広がりと深まり」と鑑賞学習交流会を共催し、美術館における鑑賞学習について報告した。
 説明者 藤島美菜
- ・『レオン・スピリアルト』展 9月6日（土） 展覧会説明者 村上博哉 参加者数11名
 内容：美術科教育学会の報告 説明者 藤島美菜



- ・『空海と高野山』展 10月18日(土) 展覧会説明者 深山 孝彰 参加者数174名
内容：美術館利用案内、図録のバックナンバーを学校図書館に寄贈
説明者 高橋秀治／藤島美菜
- ・『中村彝の全貌』展 1月24日(土) 展覧会説明者 木本文平 参加者数140名
内容：鑑賞補助資料説明、図録のバックナンバーを学校図書館に寄贈
説明者 高橋秀治／藤島美菜

児童、生徒を対象としたプログラム

- ・夏休み子ども鑑賞会「アートをはなそう！」
所蔵作品展示室や屋外展示スペースで、7～8人のグループで作品鑑賞を実施した。
鑑賞補助資料として、ワークシート(A4判)、アートカードを作成した。
担当学芸員 藤島美菜 補助 宮城島喜弘 研修生

開催日	対象	参加者数(午前/午後)
8月7日	小学校1, 2年	7名/5名
8月8日	小学校3, 4年	10名/9名
8月9日	小学校5, 6年	1名(午前のみ)
8月12日	小学校5, 6年	17名/15名
8月21日	小学校3, 4年	14名/4名
8月22日	小学校1, 2年	10名/4名

視覚に障害のある方へのプログラム

プログラムは2日間全4回を実施した。鑑賞作品としてブールデル、バルラッハ、アーチベンコなどの彫刻を触察し、絵画ではキルヒナーと須田昶太の作品について、昨年度に名古屋YWCAで行った講習を活かしてボランティアが作成した立体コピーを利用して鑑賞した(大文字と点字による解説書付)。またあわせて、企画展「戸谷成雄」の鑑賞案内もおこなった。実施にあたっては「名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループ」と点訳ボランティア「六点会」の協力を得た。このプログラムは楽しみにしているリピーターのほか口コミなどで新しい参加者もあった。

開催日	参加者数(午前/午後)
7月10日(木)	6名/2名
7月12日(土)	4名/3名

団体鑑賞の対応

事前の申し込みのあった場合、事情の許す限り各種団体に対して学芸員が展示解説や美術館利用のガイダンス等を行なっている。毎年繰り返し来館する学校数が増えている。時期としては年度の終わりの3ヶ月間に集中する傾向がある。

	小学校	中学校	高校	大学	専門学校	養護学校その他	一般	計
来館団体総数	22	27	7	3	1		8	82
上記の内学芸員が対応 (ギャラリー・トーク) した団体数(のべ人数)	11	11	2	3	0		2	36 (1344)

教育的性格を重視した展示

「学芸員お薦めのこの1点」

所蔵作品展の前室にコーナーを設け、各期ごとに学芸員が交代で作品1点を選び、文字・写真のパネルや参考品を用いて、作品の見どころや制作の背景などを解説した。これを期待して来館するリピーターも見られた。

作家名	作品名	期間	担当学芸員
高橋由一	《不忍池》	第一期 前期	村田真宏
エミール＝アントワヌ・ブールデル	《両手のペーローベン》	第一期 後期	深山孝彰
アレクセイ・クルチョーヌイフ	《『爆』第2版》	第二期 前期	古田浩俊
ジャン・アルブ	《森》	第二期 後期B	拝戸雅彦
ジャン・デュビュッフェ	《二人の脱走兵》	第三期 前期	藤島美菜

博物館実習等

博物館学芸員資格取得のための実習を希望者の中から選抜して受入れを行なっている。本年度は4大学6名を受け入れた。

実習期間 2003(平成15)年7月22日～26日(5日間)

また、これとは別に長期にわたって定期的(1週間に1度を基本)に大学院生を中心に美術館研修生として受け入れをおこなっている。本年度は2大学の院生8名学部生1名を受け入れた。研修生は主に藤井達吉コレクションの資料整備、企画展に関わる実務、教育普及事業の実務に従事した。

研修期間：2003(平成15)年5月1日～2004年3月31日



友の会活動への運営協力

友の会会員のための特別鑑賞会

各企画展ごとに閉館後や平日の他の観覧者が少ない時間帯に会員向けの鑑賞会を開催し、担当学芸員が全体レクチャーのあと展示室でのギャラリー・トークを行なっている。

- ・『菱田春草展』
2003（平成15）年5月1日（木）午後5時30分から 講師 村田真宏 参加者数151名
5月12日（月）午前10時30分から 講師 村田真宏 参加者数18名
- ・『戸谷成雄』展
6月12日（木）午後5時30分から 講師 拝戸雅彦 参加者数29名
6月30日（月）午前10時から 講師 戸谷成雄 参加者数40名
*この回のみ作家本人がギャラリー・トークを行ないたいへん好評であった。
- ・『レオン・スピリアルト』展
9月4日（木）午前10時30分から 講師 村上博哉 参加者数18名
9月4日（木）午後5時30分から 講師 村上博哉 参加者数38名
- ・『空海と高野山』展
10月16日（木）午後5時30分から 講師 深山孝彰 参加者数69名
10月20日（月）午前10時30分から 講師 深山孝彰 参加者数28名
- ・『中村 彝の全貌』展
2004（平成16）年1月14日（水）午前10時30分から 講師 木本文平 参加者数24名
1月15日（木）午後5時30分から 講師 木本文平 参加者数40名
- ・『春の愛知県美術館一戦後の美術』
3月25日（木）午前10時30分から 講師 拝戸雅彦 参加者数21名
3月25日（木）午後5時30分から 講師 拝戸雅彦 参加者数16名

その他

- ・会員向け講座
6月28日（土）演題「感性のこと」 講師 市川政憲（愛知県美術館館長）
聴講者数50名
- 8月23日（土）演題「《不忍池》をめぐって」 講師 牧野研一郎
（愛知県美術館副館長）
聴講者数28名
- 12月11日（木）演題「仏像の光背について」
講師 山崎隆之（愛知県立芸術大学教授） 聴講者数59名
- 3月20日（土）演題「自作を語る」 講師 吉岡弘昭（版画家）
聴講者数15名
- ・主な催し
5月1日（木）ロビーコンサート
出演者 たかべしげこ（女優）井原義則（テノール）、取越康子（ソプラノ）、
西尾由希（伴奏）
参加者数 会員81名、一般70名
- 2月11日（水）ロビーコンサート
出演者 アンサンブルブーケ（室内楽） 参加者数 会員43名、一般26名
- ・支援事業
美術作品の寄贈： 内容 吉岡弘昭（版画家）の作品 4点を寄贈
企画展支援：各企画展ごとに支援金を実行委員会に提供
- ・広報事業
企画展ポスター、チラシ等の宣伝材料の配布
会報『空中回廊』No.17（2003年9月）、No.18（2004年3月）の発行



美術館活動に則した調査研究

- ・市川政憲 「生命の実相」『中村彝の全貌』展図録（平成15年9月）
「野見山暁治の「絵画」一降りてくる空」『野見山暁治展』図録（平成15年8月）
「国吉康雄の芸術―内なる国境」「章解説」『国吉康雄展』図録（平成16年3月）
- ・牧野研一郎 覚書き―野見山暁治展に寄せて」『現代の眼（東京国立近代美術館報）』No.5 41（平成15年8月）
- ・木本文平 「中村 彝と官展（文展・帝展）」、「作品解説」『中村彝の全貌』展図録（平成15年9月）
- ・村田真宏 「菱田春草晩年の芸術 ―五点の《落葉》をめぐって―」「作品解説」『菱田春草展』図録（平成15年4月）
「作品解説」『空海と高野山』展図録（平成15年4月）
- ・高橋秀治 「菱田春草作品解説」『菱田春草展』図録（平成15年4月）
「作品解説」『国吉康雄年譜』『国吉康雄展』図録（平成15年3月）
- ・鯨井秀伸 「作品解説」『主要文献目録』『中村彝の全貌』展図録（平成15年9月）
- ・古田浩俊 「《1933（スペインの絵葉書のあるコラージュ）》―絵画とレリーフの狭間に―」『ベン・ニコルソン展』図録（平成16年2月）
- ・深山孝彰 「作品解説」『空海と高野山』展図録（平成15年4月）
- ・拝戸雅彦 「《見られる扉Ⅱ》の境界をアンフラマンズに經由して―1990年以降の戸谷成雄」『戸谷成雄―森の襲の行方』展図録（平成15年6月）
「古典的絵画、ナルシスとしてのクローン」『テーマ展 中條直人―アプリアー』冊子（平成16年3月）
- ・藤島美菜 「美術館と学校の共有の場をもって―小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会からうまれた実践」（2003年度第一回美術科教育学会西部地区会「美術鑑賞教育の広がり」と深まり」口頭発表、シンポジウムパネリスト 平成15年7月5日）
「美術館と学校の共有の場をもって―小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会からうまれた実践」『美術鑑賞教育の広がり」と深まり 美術教育フォーラム資料集』（平成15）

その他

- ・村田真宏 「北川民次―革命期のメキシコ美術界のなかで」『北川民次と児童画運動展』図録（平成15年6月）常葉美術館
- ・高橋秀治 「アンドリュウ・ワイエスとオルソン家」『アンドリュウ・ワイエス水彩素描展』図録（平成16年3月）姫路市立美術館ほか
- ・鯨井秀伸 「イタリア素描の主題研究」『愛知県美術館研究紀要』第10号（平成16年3月）
- ・村上博哉 「松本竣介研究」（鹿島美術財団助成）
- ・馬淵美帆 「歴博乙本〈洛中洛外図〉の筆者・制作年代再考」（『科学研究費補助金研究「描かれた都市―中近世絵画を中心とする比較研究」研究成果報告書」、平成16年3月）
「歴博乙本〈洛中洛外図〉の筆者・制作年代再考」（美術史学会支部例会研究発表要旨）（『美術史』第156冊、平成16年3月）

ギャラリー(貸館)

「愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領」にもとづき、8階の展示室A～J（全10室）を各種公募展・団体展等の利用に供している。2003（平成15）年の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは187件あり、利用調整を行い、開催された展覧会は168件、利用率は100%であった。また入場者数は、51万2千人余で、多くの県民に親しまれ、利用された。

2003（平成15）年美術館ギャラリー利用状況

1 展示室利用状況

(単位：日数)

区分 月別	利用 日可 数 a	利用 日数 b	利用 率 b/a	展示室別利用日数											審査保管室		
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	第1	第2		
15年1月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	16	7
2月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	17	7
3月	27	27	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	9	18
4月	25	25	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	8	24
5月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	15	23
6月	22	22	100.0	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	18	0
7月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	7	25
8月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	15	11
9月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	4	29
10月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	21	14
11月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	15	20
12月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	18	23	23	23	23	15	7
計	303	303	100.0													160	185

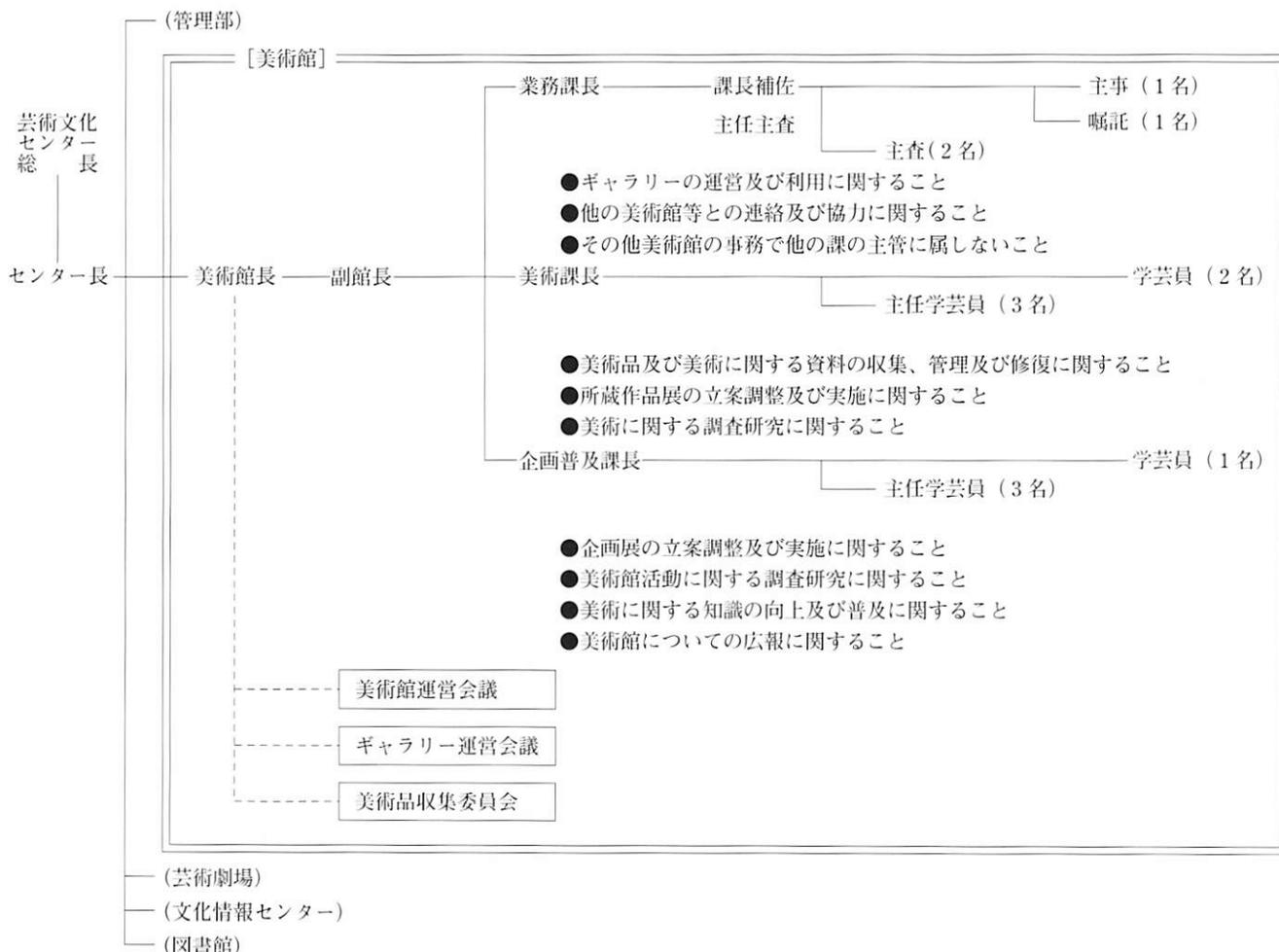
2 展覧会種別利用状況及び入場者数

区分 月別	展示会種別利用件数(件)								入場者数 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
15年1月	4	1	0	0	3	0	0	8	127,716
2月	2	0	0	1	3	1	0	7	18,190
3月	2	5	0	0	5	1	1	14	28,479
4月	6	6	0	1	4	0	0	17	53,286
5月	4	7	2	0	2	0	0	15	39,102
6月	5	3	1	0	2	0	0	11	24,161
7月	6	6	0	1	4	1	3	21	42,790
8月	7	1	0	0	2	0	0	10	36,328
9月	5	6	0	1	4	0	2	18	44,153
10月	6	4	0	0	4	1	0	15	35,377
11月	6	5	0	0	4	0	0	15	27,564
12月	4	7	0	3	3	1	0	18	34,403
計	57	51	3	7	40	5	6	169	511,549

(注) 利用件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理した。

組織および職員構成

1. 組織図



2. 愛知県美術館職員名簿(2004年3月)

館長	市川政憲
副館長	牧野研一郎
業務課長	近藤邦子
課長補佐	奥村 正
主任主査	石黒初美
主査	宇野美恵子
〃	加賀勝己
主事	立松直人
嘱託	石川澄江
美術課長	村田真宏
主任学芸員	古田浩俊
〃	鯨井秀伸
〃	拝戸雅彦
技師(学芸員)	長屋菜津子
〃	馬淵美帆
企画普及課長	木本文平
主任学芸員	高橋秀治
〃	村上博哉
〃	深山孝彰
技師(学芸員)	藤島美菜

関係委員会名簿(2004年3月、50音順)

愛知県美術館運営会議委員名簿

氏名	職名(所属)
浅野 徹	名古屋芸術大学教授
飯田 清三	愛知県県民生活部文化学事課長
内山 武夫	京都国立近代美術館長
岡部 あおみ	武蔵野美術大学教授
笠井 誠一	愛知県立芸術大学名誉教授
◎ 島田 章三	愛知県立芸術大学長
白石 和己	三重県立美術館長
竹内 正	名古屋市博物館長
○ 中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
野々川 房子	日本メナード化粧品(株)常務取締役 メナード美術館アート・プロデューサー
馬淵 明子	日本女子大学教授
三浦 定俊	東京国立文化財研究所協力調整官
宮澤 明倫	名古屋市美術館長
森 宏	愛知県文化振興事業団常務理事兼事務局長

◎ 会長 ○ 会長職務代理 (50音順)

愛知県美術館ギャラリー運営会議委員名簿

氏名	職名(所属)
浅田 員由	陶磁資料館学芸部長
飯田 清三	愛知県県民生活部文化学事課長
石黒 鏘二	彫刻家・行動美術協会会員
◎ 笠井 誠一	洋画家・立軌会会員(愛知県立芸術大学名誉教授)
島田 章三	洋画家・国画会会員(愛知県立芸術大学長)
竹内 正	名古屋市博物館長
樽本 樹邨	書家・日展会員(中京大学教授)
○ 中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
松井 和弘	日本画家・創画会会員
森 宏	愛知県文化振興事業団常務理事兼事務局長
山脇 一夫	美術評論家(金城学院大学教授)

◎ 会長 ○ 会長職務代理 (50音順)

愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

氏名	職名(所属・専門分野)
浅野 徹	名古屋芸術大学教授 (日本近代美術史)
◎ 内山 武夫	京都国立近代美術館長 (日本近代美術史)
千足 伸行	成城大学教授 (西洋近代美術史)
○ 中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授 (現代美術評論)
山梨 俊夫	神奈川県立近代美術館副館長 (近代美術史)

◎ 委員長 ○ 委員長職務代理 (50音順)

愛知県美術館年報	2003年度版
	2005年3月発行
編集	愛知県美術館
発行	愛知県美術館
	名古屋市東区東桜1-13-2 〒461-8525
	PHONE : 052-971-5511
	FAX : 052-971-5604
表紙デザイン・本文レイアウト	小谷恭治
印刷	凸版印刷株式会社

2003 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art

Edited by

Aichi Prefectural Museum of Art

Published by

Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura Higashiku,

Nagoya, 461-8525, Japan

Designed and layouted by

Kyoji KOTANI

Printed by

Toppan Print Co.

©2005

Printed in Japan